

授業科目名： 力学基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 孝明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>力、運動エネルギー、運動量等、力学における基礎概念と波動に関する基礎的事項の理解を目指す。また、微分、積分、ベクトル、行列など、本格的に力学や波動を学ぶ上で必須となる数学的概念の理解と計算方法の習得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本格的に力学を学ぶ準備学習として、力、運動エネルギー、運動量等の力学における必須の基本概念、および微分、積分、ベクトル、行列など、力学で必要とされる基礎数学を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学力テストとその解説</p> <p>第2回：物理量と単位、次元</p> <p>第3回：物理学で登場する関数</p> <p>第4回：小テスト(1)とその解説</p> <p>第5回：微分、テイラー展開</p> <p>第6回：積分</p> <p>第7回：座標系、積分を用いた面積・体積の計算</p> <p>第8回：ベクトル</p> <p>第9回：行列</p> <p>第10回：小テスト(2)とその解説</p> <p>第11回：1次変換</p> <p>第12回：小テスト(3)とその解説</p> <p>第13回：運動方程式</p> <p>第14回：振動・波動、エネルギーと運動量</p> <p>第15回：小テスト(4)とその解説</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回講義前日までにMyKonanで講義資料(テキスト)を公開する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「力学」戸田盛和 岩波書店</p>			

学生に対する評価

講義中に課題として出す演習問題の提出状況、小テスト・定期試験の結果により評価する。

授業科目名： 電磁気学基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梅津 郁朗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「電場」・「電位」等、電磁気学における必須の基本概念の習得 2. ベクトルを用いた「電場」の表現法の習得 3. 「電場」・「電位」の計算法の習得 			
授業の概要			
「電場」・「電位」等の電磁気学における必須の基本概念、およびその理解に必要な基礎数学を学習する。			
授業計画			
第1回：基礎学力試験			
第2回：電子・電荷・電流			
第3回：クーロンの法則と点電荷が作る電場			
第4回：クーロンの法則とベクトル			
第5回：コンデンサー中での電気力線、静電場、電位			
第6回：静電エネルギーと力学的エネルギー			
第7回：理解度の確認試験			
第8回：点電荷が作る電場と仕事			
第9回：電気力線と等電位線			
第10回：微分積分、ベクトルの重要性の復習			
第11回：等電位線の実験に向けた基礎知識			
第12回：コンデンサーの実験に向けた基礎知識			
第13回：電子と光、原子と原子核			
第14回：単位と次元			
第15回：まとめと確認テスト			
定期試験			
テキスト			
各自が高等学校で使用した「物理基礎」、「物理」の教科書			
参考書・参考資料等			
資料をWeb上にアップロードする。			

電磁気学 講義ノート (ライブラリ理学・工学系物理学講義ノート5) 市田正夫 (サイエンス社)

「電磁気学」中山正敏著 (裳華房 1986年)

「基礎演習シリーズ 電磁気学」中山正敏著 (裳華房 1986年)

「電磁気学 I,II」長岡洋介著 (岩波書店 1997年)

「例解電磁気学演習」長岡洋介他著 (岩波書店 1997年)

「詳解電磁気学演習」後藤憲一他著 (共立出版 1993年)

学生に対する評価

課題、小テスト、定期試験により評価する。

授業科目名： 振動・波動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野瀬 嘉太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標 振動および波動の基礎について学び、格子振動や電磁波を理解するための基礎を作る。			
授業の概要 本講では、材料の熱的物性や光物性、X線回折などを定量的に考察するうえで必要な振動および波動の基礎について、具体例を示しながら解説する。 単振動より始めて、減衰振動および強制振動を扱い、振動のエネルギーについて解説する。次に、自由度が2の場合の連成振動、および一般の自由度の基準振動モードと基準座標について学ぶ。さらに、連続体の振動とこれを記述する波動方程式、フーリエ級数について述べ、これらをもとに波の反射や透過、重ね合わせ、干渉・回折などの波の性質について論じる。			
授業計画 第1回：振動と波動，単振動 第2回：単振動の運動方程式，調和振動子のエネルギー 第3回：単振動の例，減衰振動 第4回：抵抗のある強制振動，共鳴 第5回：減衰強制振動のエネルギー 第6回：二粒子系（自由度2）連成振動 第7回：一次元多粒子（多自由度）系の振動，分散関係 第8回：中間のまとめと中間試験 第9回：連続体の振動，弦の振動 第10回：波動方程式，フーリエ級数の一般論 第11回：一次元の波，一次元波動方程式， 第12回：位相速度と群速度，分散，うなり 第13回：波の反射と透過 第14回：平面波・球面波，波の重ね合わせと干渉，回折 第15回：電磁波，「まとめ」 定期試験			
テキスト 「振動・波動」 小形正男著，（裳華房，1999年）			

参考書・参考資料等

「振動・波動論講義」 際本泰士著, (コロナ社 2005年)

「振動・波動・光講義ノート」 引原隆士, 中西俊博著 (サイエンス社 2020年)

学生に対する評価

毎回講義に出席していることを前提として, 期末試験 (45%), 中間試験およびレポートの提出状況 (55%) によって評価する。

授業科目名： 天文学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須佐 元
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標 太陽系・宇宙の構造・歴史・星の構造など天文学の基礎について理解する。			
授業の概要 天文学の基礎を幅広くカバーする講義である。内容は太陽系から恒星の構造、銀河、宇宙の膨張まで多岐にわたるが、それぞれ概要を掴んでもらい、今後より数学的に理解していくための入り口として構成されている。			
授業計画 第1回：地球の運動 第2回：太陽系の天体 第3回：ニュートン力学 第4回：太陽のエネルギー 第5回：太陽の構造と活動 第6回：天体の等級 第7回：恒星のスペクトル 第8回：HR図 第9回：中間確認テストとまとめ 第10回：恒星の誕生 第11回：恒星の進化 第12回：ブラックホール 第13回：銀河系 第14回：銀河と宇宙 第15回：膨張する宇宙 定期試験			
テキスト 「はじめて学ぶ大学教養地学」慶應義塾大学出版会			
参考書・参考資料等 テキストは全てカバーしていないので、適宜電子的に参考資料を配布する。			
学生に対する評価			

平常点20%、中間確認テスト40%、定期テスト40%の割合で点数をつける。

授業科目名： 化学 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木本 篤志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「化学1」および「化学2」では、高等学校までに学習した化学の内容を網羅的に復習しつつ、大学の化学の専門科目の修得において最も基盤となる考え方を身につける。これにより、中学校・高等学校における理科（化学）の内容をより本質的に理解するとともに、さらに大学で学ぶ高度な化学の専門性を高める土台を築く。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>化学は、物質の構造と性質、ならびに物質の変化を取り扱う学問である。したがって、化学を包括的に理解するためには、物質の構造と性質や反応性の関係を理解する一方、物質の物理変化および化学変化におけるエネルギー変化を正確に理解する必要がある。</p> <p>「化学1」では『物質の構造・性質と反応』をテーマに、原子・分子レベルの構造と物質の諸性質との関係を学ぶ。本講義は、『物質の変化とエネルギー』を取り扱う「化学2」と合わせて履修することにより、包括的な一般化学の基盤をつくる。</p> <p>なお、本講義は教職課程の教科に関する専門的事項科目であり、中学校学習指導要領「理科第一分野」、高等学校学習指導要領「化学基礎」および「化学」に対応した内容を含む。教職課程履修に関する詳細は履修要項と教職ガイドブックを参照すること。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：物質と化学：元素と周期表</p> <p>第2回：物質と化学：原子の構造</p> <p>第3回：化学反応と化学量論</p> <p>第4回：原子のエネルギー準位：前期量子論</p> <p>第5回：原子のエネルギー準位：原子軌道</p> <p>第6回：原子のエネルギー準位：多電子原子の軌道</p> <p>第7回：原子のエネルギー準位：イオン化合物</p> <p>第8回：確認テストと解説、原子の構造のまとめ</p> <p>第9回：化学結合と分子構造：共有結合と極性</p> <p>第10回：化学結合と分子構造：VSEPRと原子価結合理論</p> <p>第11回：化学結合と分子構造：分子の形状と混成軌道</p> <p>第12回：化学結合と分子構造：有機化合物における混成軌道</p>			

第13回：物質の状態：気体の性質

第14回：物質の状態：液体の性質

第15回：物質の状態：固体の性質

定期試験

テキスト

「ブラックマン 基礎化学」(東京化学同人 2019年)

参考書・参考資料等

「マクマリー 一般化学 (上)」(東京化学同人 2010年)

「マクマリー 一般化学 (下)」(東京化学同人 2010年)

学生に対する評価

確認テスト、および期末試験の点数を評価全体の80%とし、平常点(講義中の小テスト、講義で課されるレポートなど)を評価全体の20%として、その合計点により評価する。

授業科目名： 化学2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 下条 晃司郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「化学1」および「化学2」では、高等学校までに学習した化学の内容を網羅的に復習しつつ、大学の化学の専門科目の修得において最も基盤となる考え方を身につける。これにより、中学校・高等学校における理科（化学）の内容をより本質的に理解するとともに、さらに大学で学ぶ高度な化学の専門性を高める土台を築く。</p>			
授業の概要			
<p>化学は、物質の構造と性質、ならびに物質の変化を取り扱う学問である。したがって、化学を包括的に理解するためには、物質の構造と性質や反応性の関係を理解するいっぽう、物質の物理的变化および化学変化におけるエネルギー変化を正確に理解する必要がある。</p> <p>「化学2」では、『物質の変化とエネルギー』をテーマに、物質の状態と化学エネルギーの関係、および物質の変化（状態変化、化学変化）におけるエネルギー変化について学ぶ。本講義は、『物質の構造・性質と反応』を取り扱う「化学1」とあわせて履修することにより、包括的な一般化学の基盤をつくる。</p> <p>なお、本講義は教職課程の教科に関する専門的事項の科目であり、中学校学習指導要領「理科第一分野」、高等学校学習指導要領「化学基礎」および「化学」に対応した内容を含む。教職課程履修に関する詳細は履修要項と教職ガイドブックを参照すること。</p>			
授業計画			
第1回：測定と計算			
第2回：化学熱力学：系、熱、仕事			
第3回：化学熱力学：エントロピーとエンタルピー			
第4回：化学熱力学：ギブズエネルギーと化学反応			
第5回：化学平衡：平衡定数			
第6回：化学平衡：平衡とギブズエネルギー			
第7回：確認テストと解説、化学平衡論のまとめ			
第8回：溶液と溶解度：溶液の化学量論、溶解度積			
第9回：溶液と溶解度：溶液の束一性			
第10回：酸と塩基：水中での酸塩基反応			
第11回：酸と塩基：緩衝液、酸塩基滴定			

第12回：酸化還元：酸化還元反応と電位の考え方

第13回：酸化還元：電気分解と電池

第14回：反応速度論：反応速度、反応次数

第15回：反応速度論：化学反応と反応速度論

定期試験

テキスト

「ブラックマン 基礎化学」(東京化学同人 2019年)

参考書・参考資料等

「マクマリー 一般化学 (上)」(東京化学同人 2010年)

「マクマリー 一般化学 (下)」(東京化学同人 2010年)

学生に対する評価

確認テスト、および期末試験の点数を評価全体の80%とし、平常点(講義中の小テスト、講義で課されるレポートなど)を評価全体の20%として、その合計点により評価する。

授業科目名： 分析化学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 茶山健二、岩月聡史
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>a. イオン強度、活量の概念が理解できる。 b. 活動度係数 γ を計算により求めることが出来る。 c. 強酸、強塩基の溶液の pH 計算が出来るようにする。 d. 一塩基酸の溶液内イオン平衡を説明でき計算が出来る。 e. 緩衝溶液について理論的に理解できる。 f. 沈殿平衡を理解でき、溶液中の沈殿生成の予測が出来る。 g. 共通イオン効果等の概念を身につける。 h. 重量分析の簡単な計算が出来る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>分析化学は、物理化学、無機化学、有機化学などと併立する化学の分野である。単に技術、知識として重要であるばかりでなく、分析化学的な研究方式、すなわち各種の化学種を定性、定量し、試料の性格をはっきり理解し、そこから考えを進めていく方式は、化学研究の根幹である。ここでは主に、溶液内イオン平衡、重量分析・容量分析の基礎について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに：分析化学とは（化学分析法と機器分析法） 第2回：分析化学で取り扱う化学反応と化学平衡、溶液の濃度 第3回：濃度を規定する測容器の取り扱い 第4回：活動度の概念とイオン強度、活動度係数 第5回：酸および塩基の理論 第6回：酸および塩基の強さ 第7回：pHおよび中性溶液の概念 第8回：強酸および強塩基の溶液 第9回：電荷均衡とプロトン均衡 第10回：弱酸の溶液と弱塩基の溶液 第11回：共役酸塩基対の溶液 第12回：沈殿平衡およびイオン液体生成平衡の取り扱い 第13回：共通イオン効果 第14回：錯形成平衡の取り扱い 第15回：キレート効果</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

指定しない (MyKonanに資料をアップロードする)

参考書・参考資料等

分析化学 (改訂版) 黒田・杉谷・渋川共著 (裳華房、2008年)

ベーシック分析化学 高木誠 編著 (化学同人、2006年)

イオン平衡 分析化学における H.Freiser著藤永太郎・関戸榮一共訳 (化学同人)

学生に対する評価

中間テスト (30%)

期末テスト (60%)

出席と課題レポート (10%)

授業科目名： 熱力学基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野瀬 嘉太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 熱力学の基礎について学び、化学において必要となる化学熱力学を理解するための基礎を作る。			
授業の概要 本講では、化学現象を定量的に考察するうえで必要な化学熱力学の基礎について、具体例を示しながら解説する。化学現象（反応）に対する静的側面からのアプローチを中心に、 <ul style="list-style-type: none"> ●化学反応と種々の環境条件（温度や圧力など）の関係 ●エンタルピー， エントロピー， 自由エネルギーの概念とそれらの関係 ●相平衡， 化学平衡とエネルギー変化の関係 などについて説明する。			
授業計画 第1回：エネルギーと仕事：運動エネルギー， 内部エネルギー， 気体のする仕事， 熱力学第一法則 第2回：熱力学に必要な数学：微分と積分， 偏微分と全微分 第3回：可逆過程と不可逆過程， 最大仕事， 状態量， エンタルピー， 熱容量 第4回：熱機関とエントロピー1：カルノーサイクル， 内部エネルギー変化 第5回：熱機関とエントロピー2：エントロピー 第6回：熱力学第二法則 第7回：中間のまとめと中間試験 第8回：相平衡への熱力学の適用1：気液平衡と相律， 化学ポテンシャル 第9回：相平衡への熱力学の適用2：クラジウス・クラベイロンの式 第10回：化学平衡と自由エネルギー 第11回：熱化学：エンタルピー， 熱容量 第12回：多成分系の熱力学1：混合量と部分モル量， 混合エントロピー 第13回：多成分系の熱力学2：多成分系の相平衡， 化学ポテンシャル 第14回：多成分系の熱力学3：ラウールの法則とヘンリーの法則 第15回：正則溶体モデル， 「まとめ」 定期試験 テキスト			

1. 加納健司・山本雅博 たのしい物理化学I 化学熱力学・反応速度論 (講談社サイエンティフィック) 2016
2. 山本雅博・加納健司訳 D. S. Sivia and S. G. Rawlings 演習で学ぶ科学のための数学 (化学同人) 2018
3. 講義での配布資料

参考書・参考資料等

「理工系基礎レクチャー 物理化学I 化学熱力学編」 塩井章久著, (化学同人 2007年)
「マッカーリー・サイモン 物理化学 (下)」 D.A. McQuarrie, J.D. Simon著, 千原・江口・斎藤・訳 (東京化学同人 2000年)

"Problems & Solutions to Accompany McQuarrie - Simon Physical Chemistry: A Molecular Approach," Heather Cox著, Univ Science Books (1997/10) 上記「マッカーリー・サイモン 物理化学 (下)」の演習問題の解答書です。

学生に対する評価

毎回講義に出席していることを前提として, 期末試験 (50%), 中間試験および演習ノートの結果 (50%) によって評価する。

演習ノートの未提出, 中間試験を受験しない, 定期試験を受験しない場合は, 成績は原則「不可」と記されるものと考えてほしい。

授業科目名： 物理化学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 雅博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
平衡論に基礎をおいた熱力学を基礎として、化学において必要となる化学熱力学を理解するための基礎を作る。			
授業の概要			
化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も課題を充分行ない、理解を助けるよう工夫する。			
特に、本講では、化学現象を定量的に考察するうえで必要な化学熱力学の基礎について、具体例を示しながら解説する。化学現象（反応）に対する静的側面からのアプローチを中心に、			
<ul style="list-style-type: none"> ●化学反応と種々の環境条件（温度や圧力など）の関係 ●エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーの概念とそれらの関係 ●化学平衡とエネルギー変化の関係 			
などについて説明する。			
また、平衡論としての熱力学をベースに反応速度論も詳しく説明する。			
授業計画			
第1回：熱力学関数等の物理化学基礎の復習			
第2回：化学平衡 平衡定数と反応商，化学平衡の法則，熱力学的観点の化学平衡			
第3回：化学平衡 平衡とエントロピー，平衡定数の圧力依存制，平衡定数の温度依存性			
第4回：酸塩基反応 酸定数，酸塩基平衡の基本式			
第5回：酸塩基反応 緩衝液，緩衝能，酸塩基反応の熱力学			
第6回：酸化還元反応 酸化数，ダニエル電池，起電力（電位）と酸化還元反応のギブズエネルギー			
第7回：酸化還元反応 イオン・電子の電気化学ポテンシャルとネルンスト式，電池反応のギブズエネルギー			
第8回：前半の授業の理解度の確認，中間テスト 3問60分			
第9回：界面 界面の熱力学，電気毛管曲線			
第10回：界面 Langmuirの吸着等温式，Frumkinの吸着等温式			
第11回：反応速度式 反応に固有な反応速度，反応次数の決定法，1次反応速度式			
第12回：反応速度式 可逆1次反応速度式，二次反応速度式，逐次反応速度式，定常状態近似と前			

駆平衡近似

第13回：反応速度論 遷移状態理論, アレニウスの速度式,

第14回：反応速度論 速度定数の温度依存性

第15回：物質移動と物質輸送 まとめ 物質移動の駆動力, 拡散, 平均拡散距離, 電気泳動, ネルンストプランクの式, 電気伝導率, 遠心沈降

定期試験**テキスト**

1. 加納健司・山本雅博 たのしい物理化学1 化学熱力学・反応速度論(講談社サイエンティフィック) 2016
2. 山本雅博・加納健司訳 D. S. Sivia and S. G. Rawlings 演習で学ぶ科学のための数学(化学同人) 2018
3. 山本雅博・池田茂・加納健司 たのしい物理化学2 量子化学(講談社サイエンティフィック) 2024

参考書・参考資料等

「マッカーリー・サイモン 物理化学 (下)」 D.A. McQuarrie、J.D. Simon著、千原・江口・斎藤・訳(東京化学同人 2000年) (準教科書)

"Problems & Solutions to Accompany McQuarrie - Simon Physical Chemistry: A Molecular Approach," Heather Cox著、Univ Science Books (1997/10) 上記「マッカーリー・サイモン 物理化学 (下)」の演習問題の解答書

学生に対する評価

演習ノート, 中間テスト, 定期テストにより評価する。演習ノート未提出, 中間テストと定期テストを未受験の場合は不可となる。出席点は全体の5%しかない。

授業科目名： 物理化学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 良
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
液体・溶液の性質について体系化して講ずる。個別の事項を覚えるだけでなく、その分野の概念や論理を理解し身につけることを目標とする。			
授業の概要			
液体や溶液の化学は、地球、環境あるいは生物などと密接に関わり、また種々の産業・技術に対しても重要な知見を与える学問分野である。本講義では、熱力学を主とする巨視的な見方、すなわち、化学ポテンシャルをはじめとする部分モル量、活量係数、混合関数などにに基づいて、溶液の基本的な性質を述べる。その際に、溶液が理想的に振る舞う場合（理想溶液）と非理想的に振る舞う場合（実在溶液）の差に注目する。また、微視的な相互作用について述べ、液体や溶液の特性や構造を理解するように講ずる。			
授業計画			
第1回：分子間相互作用・熱力学関係式			
第2回：相変化、相律			
第3回：クラウジウス-クラペイロンの式			
第4回：部分モル量、化学ポテンシャル			
第5回：ギブス-デュエムの式			
第6回：ラウールの法則・ヘンリーの法則			
第7回：2成分系の相図			
第8回：活量係数			
第9回：混合関数、剰余関数			
第10回：正則溶液			
第11回：束一的性質1（蒸気圧降下、凝固点降下）			
第12回：束一的性質2（沸点上昇、浸透圧）			
第13回：電解質溶液1（電解質溶液に関する基礎知識）			
第14回：電解質溶液2（電解質溶液の熱力学）			
第15回：デバイ-ヒュッケルの理論			
定期試験			
テキスト			

マッカーリ・サイモン 物理化学 下 東京化学同人 (2008年)

参考書・参考資料等

基本化学熱力学-展開編 蒲池幹治著 三共出版 2016年 (ISBN : 978-4-7827-0740-1)

化学熱力学 原田義也著 裳華房 (修訂版 2002)

ソフトマターのための熱力学 田中文彦著 裳華房 (2009)

学生に対する評価

授業ノート、課題、期末試験に基づき評価を行う。

授業科目名： 有機化学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 片桐 幸輔
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アルケン、アルキンおよびハロゲン化物の性質、構造、反応について理解するとともに、指定教科書の章末問題が解けることを到達目標とする。また反応における電子の動きを理解して構造式や反応式を書けるようになること、人に説明ができることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>我々の暮らしを豊かにする様々な物質、例えばたんぱく質や核酸、糖、脂質などの生体を構成する物質、およびゴムや樹脂、繊維などは有機化合物からできているものが多い。それゆえ有機化学は生化学や高分子化学の基礎として位置づけられる重要な学問である。「有機化学A」、「同B」、「有機合成化学」、「有機構造化学」を通して基本的な有機化合物の化学について系統的に学び、理解することを目標としている。「有機化学A」では、主に官能基に基づく分類にしたがって、不飽和炭化水素とハロゲンをもつ化合物について、それらの性質、構造、反応、合成等について系統的に解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 アルケンの命名と立体化学について</p> <p>第2回 アルケンの求電子付加反応について</p> <p>第3回 アルケンの反応と合成について</p> <p>第4回 アルケンの酸化について</p> <p>第5回 アルキンの命名と構について</p> <p>第6回 アルキンの反応と合成について</p> <p>第7回 確認テストと解説1</p> <p>第8回 有機ハロゲン化物の命名と合成について</p> <p>第9回 ハロゲン化アルキルの反応について</p> <p>第10回 求核置換反応（SN_2反応）について</p> <p>第11回 求核置換反応（SN_1反応）について</p> <p>第12回 脱離反応（E_2反応）について</p> <p>第13回 脱離反応（E_1反応）について</p> <p>第14回 確認テストと解説2</p> <p>第15回 まとめ</p>			

定期試験
テキスト マクマリー有機化学（第9版）（上、東京化学同人、ISBN978-4-8079-0912-4）
参考書・参考資料等 マクマリー有機化学（第9版）（中、下） 化合物から理解する大学の有機化学 必要な機器分析とともに （丸善出版、ISBN978-4-621-30861-5） ボルハルトショアー現代有機化学（第6版）（上、下）
学生に対する評価 出席（5%）、小テスト（15%）、中間試験1（20%）、中間試験2（20%）、最終試験（40%）を総合して評価する。

授業科目名： 有機化学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 檀上 博史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業科目では、基本的な有機化合物の化学について系統的に学び、理解することをテーマとしている。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンゼンおよびその類縁体の芳香族性や反応性について説明できる。 ・芳香族求電子置換とそれに対する置換基効果について説明できる。 ・芳香族化合物やアルコール、フェノール、エーテル、エポキシド、アルデヒド、ケトンなど代表的な活性官能基を有する化合物群を命名し、また名称より構造を描くことができる。 ・芳香族化合物やアルコール、フェノール、エーテル、エポキシド、アルデヒド、ケトンなど代表的な活性官能基を有する化合物群の調製法や官能基化法、官能基変換について具体例を列挙することができる。 ・カルボニル求核付加反応について反応機構を説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>生体はもとよりわれわれの身の回りに存在する物質の多くは有機化合物でできている。したがって、有機化学は最先端の機能性物質までも含む広範囲の物質科学や生命科学の基礎的な学問として重要である。</p> <p>この科目では、主に官能基に基づく分類にしたがって、芳香族化合物とアルコール、フェノール、エーテル、エポキシド、アルデヒド、ケトンについて、それらの性質、構造、反応、合成等について系統的に解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ベンゼンと芳香族性（1）：命名法、芳香族化合物</p> <p>第2回：ベンゼンと芳香族性（2）：芳香族性</p> <p>第3回：ベンゼンの化学：芳香族求電子置換（1）：芳香族求電子置換（1）臭素化ほか</p> <p>第4回：ベンゼンの化学：芳香族求電子置換（2）：芳香族求電子置換（2）Friedel-Crafts反応</p> <p>第5回：ベンゼンの化学：芳香族求電子置換（3）：置換基効果</p> <p>第6回：ベンゼンの化学：芳香族求電子置換（4）：多置換ベンゼンの合成、その他の反応</p> <p>第7回：アルコールとフェノール（1）：命名法、アルコールの製法（1）アルケンの付加反応による製法</p>			

第8回：アルコールとフェノール（2）：アルコールの製法（2）還元による製法
第9回：アルコールとフェノール（3）：アルコールの製法（3）Grignard試薬を用いた製法
第10回：アルコールとフェノール（4）：アルコールの反応
第11回：エーテルとエポキシド（1）：命名法、エーテルの製法
第12回：エーテルとエポキシド（2）：エーテルの反応、エポキシドの製法と反応
第13回：アルデヒドとケトン（1）：命名法、製法
第14回：アルデヒドとケトン（2）：反応（1）酸化、還元
第15回：アルデヒドとケトン（3）：反応（2）求核付加反応
定期試験

テキスト

「マクマリー 有機化学（中）（第9版）」J. マクマリー著、伊東他訳（東京化学同人）

参考書・参考資料等

「マクマリー 有機化学（上・下）（第9版）」J. マクマリー著、伊東他訳（東京化学同人）

「ブルース 有機化学（上・下）（第4版）」P. Y. ブルース著、大船他訳（化学同人）

「ジョーンズ 有機化学（上・下）（第3版）」M. ジョーンズ, Jr. 著、奈良坂他訳（東京化学同人）

学生に対する評価

小テスト取組状況（2割程度）、定期試験（8割程度）の成績を総合して評価する。

授業科目名： 無機化学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 町田 信也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
化学結合の中心となる共有結合、イオン結合、金属結合の概念を用いて、シンプルな化合物の構造及びその電子構造について記述できるようになること。また、周期律表における非金属元素の化合物、典型元素の化合物について、記述的な化学を理解すること。			
授業の概要			
無機化学を理解する上で必須事項である化学結合とシンプルな分子の立体構造を中心に解説し、その後、元素とその化合物、さらには無機反応について解説する。			
授業計画			
第1回： 原子の構造と周期性			
第2回： イオンの生成（イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度）			
第3回： 化学結合－単純なモデル			
第4回： 共有結合－ルイス構造式の書き方			
第5回： 原子価結合法（混成軌道）と分子の立体構造の推定			
第6回： 分子軌道の組み立て			
第7回： イオン結合1－代表的なイオン結晶構造（原子・イオンの大きさ）			
第8回： イオン結合2－格子エネルギー（ボルン＝ハーバーサイクル）			
第9回： イオン結合3－格子エネルギー（マーデルング定数とボルン＝マイヤー式）			
第10回： 元素の性質と化合物1－水素・貴ガス・アルカリ金属・アルカリ土類金属			
第11回： 元素の性質と化合物2－共有結合性化合物の簡単な分子軌道について			
第12回： 元素の性質と化合物3－13族元素、14族元素、15族元素、16族元素			
第13回： 元素の性質と化合物4－ハロゲンと17族元素および12族元素			
第14回： 遷移金属元素－元素の単体と化合物の概略			
第15回： 遷移金属を含む錯体のエネルギー図（結晶場理論）			
定期試験			
テキスト			
「無機化学-その現代的アプローチ-」 第3版、平尾一之、田中勝久、中平敦著、（東京化学同人、2023）			
「演習無機化学－基本から大学院入試まで」第3版、田中勝久、平尾一之、中平敦、幸塚			

広光, 滝澤 博胤 著、(東京化学同人、2024)

参考書・参考資料等

「シュライバー・アトキンス 無機化学上 (第6版)」 Weller, Overton, Rourke, Armstrong著、田中、他訳 (東京化学同人 2016)

「無機化学 (役に立つ化学シリーズ)」 出来 成人, 水畑 穰, 辰巳砂 昌弘 編著、(朝倉書店 2009)

「基礎無機化学 (改訂版)」 一國雅巳 著 (裳華房 2008)

「マッカーリー・サイモン 物理化学 (上)」 D. A. MaQuarrie・J. D. Simon著 千原秀昭、江口太郎、齋藤一弥 訳 (東京化学同人 1999)

「ヒューイ 無機化学 (上)」 James E. Huheey 著 小玉剛二・中沢 浩 訳 (東京化学同人 1984)

学生に対する評価

定期試験50% + 小テスト 30% + 確認テスト 10% + 課題・レポート 10%

合計 100点 うち 60点以上の成績で合格

なお、小テストおよび確認テストは授業時間内に適宜行う。

授業科目名： 無機化学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田 茂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>予習及び教員によるフィードバック等も含めた学修を通じて、以下の目標を達成することを目指す。</p> <p>(1) 酸と塩基の基本的な概念について説明できる。</p> <p>(2) 酸化還元反応がどのような化学現象として見られるかを理論的に説明できる。</p> <p>(3) 錯体の立体構造、名称、電子構造及び化学反応を説明できる。</p> <p>(4) 固体材料の結晶構造、結晶構造の解析手法の原理及び電子構造を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>無機化学で取り扱う元素は周期表のすべての元素であり、対象となる物質は多種多様かつ膨大な数であるが、周期表のように各元素を秩序立てて並べることによって、その性質を系統的に理解することが可能となる。無機化学Bでは、無機化学Aの履修内容に続き、酸と塩基、酸化還元反応の溶液化学について解説する。さらに錯体と固体の構造と性質の基礎化学について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 化学結合</p> <p>第2回 溶液の熱力学</p> <p>第3回 酸と塩基</p> <p>第4回 酸化還元反応と標準電極電位</p> <p>第5回 ラティマー図とネルンスト式</p> <p>第6回 これまでのまとめと確認テスト</p> <p>第7回 錯体の立体構造と命名法</p> <p>第8回 結晶場理論</p> <p>第9回 ヤーンテラー効果</p> <p>第10回 錯体の反応</p> <p>第11回 固体の構造の表し方</p> <p>第12回 格子面と代表的な結晶構造</p>			

第13回 X線回折

第14回 結晶構造の不完全性

第15回 固体の電子構造

テキスト

「無機化学-その現代的アプローチ- 第3版」 田中勝久、中平 敦、平尾一之 著（東京化学同人 2023年）

「演習無機化学—基本から大学院入試まで 第3版」 田中勝久、中平 敦、平尾一之、幸塚広光、滝澤博胤 著（東京化学同人 2023年）

参考書・参考資料等

「シュライバー・アトキンス 無機化学上 第4版」 Atkins, Overton, Rourke, Weller, Armstrong 著（東京化学同人 2008年）

「アトキンス 物理化学下 第10版」 Atkins, Paula 著（東京化学同人 2008年）

「無機化学（役に立つ化学シリーズ）」 出来成人、水畑穰、辰巳砂昌弘 著（朝倉書店 2009年）

学生に対する評価

演習問題の実施状況（50%）、確認テスト（20%）、試験（30%）

授業科目名： 量子化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田 茂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>予習及び教員によるフィードバック等も含めた学修を通じて、以下の目標を達成することを目指す。</p> <p>(1) 粒子と波の二重性や離散的なエネルギー準位など、量子化学の考え方を理解する。</p> <p>(2) 波動関数の解釈や不確定性原理を理解する。</p> <p>(3) 基本的な境界条件におけるシュレーディンガー方程式について、波動関数とエネルギーを計算できる。</p> <p>(4) 水素原子および多電子原子の電子エネルギー構造を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>分子の性質はそれを構成する原子核の種類やその結合様式、電子の状態によって決まる。これらは古典力学では説明できず、量子力学の諸原理に基づいている。そのため、さまざまな化学現象の本質を説明できるようになるには、量子力学的な考え方（量子化学）を理解することが不可欠である。この授業では、量子化学のもとになる原理の説明から量子化学の基礎について説明し、それをどのようにしたら原子の電子状態に応用できるかを講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 量子化学に必要な数学の演習</p> <p>第2回 量子力学誕生の歴史</p> <p>第3回 二重スリット実験、不確定性原理</p> <p>第4回 ボーアの原子モデル</p> <p>第5回 波動方程式</p> <p>第6回 シュレーディンガー方程式の導出</p> <p>第7回 波動関数の確率解釈、演算子</p> <p>第8回 これまでのまとめと確認テスト</p> <p>第9回 演算子の交換関係、不確定性原理</p> <p>第10回 角運動量演算子、一次元の粒子の運動</p> <p>第11回 一次元の箱の中の粒子</p>			

第12回 三次元の箱の中の粒子、トンネリング

第13回 水素原子：角度部分

第14回 水素原子：動径部分、全波動関数及びエネルギー

第15回 多電子原子

テキスト

「たのしい物理化学 2 量子化学」 山本雅博、池田茂、加納健司 著（講談社サイエンティフィック 2024年）

参考書・参考資料等

「物理化学 分子論的アプローチ 上」 D. A. McQuarrie、J. D. Simon著（東京化学同人 1999年）

「量子論の基礎から学べる量子化学」 尾上 順 著 （近代科学社 2012年）

「アトキンス 物理化学 上 第10版」 P. Atkins、J. de Paula著 （東京化学同人 2017年）

「量子化学 基礎から応用まで」 金折 賢二 著 （講談社 2018年）

学生に対する評価

演習問題の実施状況（40%）、確認テスト（30%）、期末試験（30%）

授業科目名： 生物学通論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 龍一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：すべての生命活動は細胞を単位として行われている。われわれ多細胞動物ではさまざまな性質を持った細胞が集まって組織化し、それぞれの細胞が互いに協調的に働いている。その結果、単一の細胞では不可能な機能が実現され、個体の生命が維持される。本講義では、進化を通して生物に共通する細胞および細胞間で起こっている生命現象の基本的な仕組みを学ぶ。</p> <p>到達目標：生命現象の基礎である、細胞を単位とした生き物の基本構造と、生命を維持する機能の基本メカニズムを理解し、みずからの言葉で論じることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>動物細胞を中心に講義を進める。まず細胞の基本構造と構成物質、細胞における情報伝達について学ぶ。次に、生命維持のための機能の仕組みについて行動と神経系の関係を例にとって講義をし、最後に生物の進化について論ずる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスおよび生物の多様性、生物の階層性について</p> <p>第2回：生命の誕生と多細胞生物について</p> <p>第3回：細胞を構成する物質について</p> <p>第4回：核酸と遺伝情報および遺伝の法則について</p> <p>第5回：細胞内での情報伝達について</p> <p>第6回：細胞間での情報伝達について</p> <p>第7回：脳・神経系の多様性と行動を起こす神経のしくみの例</p> <p>第8回：神経の活動と情報伝達について</p> <p>第9回：感覚系の一般的性質と動物のさまざまな感覚について</p> <p>第10回：視覚系の情報処理について</p> <p>第11回：運動の仕組みと感覚系との関係について</p> <p>第12回：学習と記憶について</p> <p>第13回：行動の発現や調節・動機について</p> <p>第14回：生物の進化について</p>			

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

生物学 上巻 (P・レーヴン、G・ジョンソン、J・ロソス、S・シンガー著、培風館)

ニューロンの生物学 (F・デルコミン著、トッパン)

学生に対する評価

授業の取り組み状況 (15%程度)、授業後の小テスト (25%程度)、期末テスト (60%程度)

授業科目名： 生物学通論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中島 裕夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校学習指導要領・理科第二分野、高等学校学習指導要領・生物基礎および生物の植物・動物分野に対応した内容とその背景にある知見を完全に理解すること			
授業の概要 生物学・医学の話題の中で、特にヒトやマウスの遺伝学を中心として専門外の人にとって意外と感じられるような内容を抽出し、その基礎的な生物学を解説する。 なお、本講義は、教職課程「教科に関する専門的事項の科目」であり、中学校学習指導要領・理科第二分野、高等学校学習指導要領・生物基礎および生物に対応した内容を含む。教職課程履修に関する詳細は履修要項と教職ガイドブックを参照せよ。			
授業計画 第1回 生物学・医学の始まり 第2回 宇宙の始まり、生命の起源（素粒子、原子、分子から脂質、蛋白質、DNAまで） 第3回 DNAが全ての生物で共通物質なのはなぜか。 第4回 遺伝子のパトリオティズムとナショナリズム、ダーウィニズムと今西イズムと中立進化説 第5回 DNAの編集とその利用法（遺伝学とジュラシックパークそして楽譜としてのDNA） 第6回 遺伝子発現のメカニズム（発生、代謝、疾病、性格、知能、感情） 第7回 テロメアとp53遺伝子による細胞死、個体死のメカニズム 第8回 進化と疾病の変遷、遺伝病とその起こるしくみ（遺伝病の人が健常人より得ることがあるわけ、なぜ生存に不利な遺伝子が進化の過程でなくならなかったか） 第9回 アダムのY染色体と日本人のルーツ 第10回 医薬品の遺伝毒性と発がん性、安全性評価（GLP, GMP） 第11回 突然変異、奇形、発がん、遺伝子診断 第12回 放射線の生物影響（生体内水、DNA、染色体、細胞、臓器組織、個体、集団） 第13回 DNA損傷の修復機構と突然変異の検出方法 第14回 放射線によるヒトへの健康影響（急性障害、晩発障害、確定的影響、確率的影響） 第15回 チェルノブイリ、福島原発事故の生物影響（現地調査から）、まとめとしての生物学と哲学と数学 定期試験			

テキスト

毎回プリント資料を配布する。

教科書を指定しないが、講義中にそれぞれの話題に関係した参考図書を紹介する。

参考書・参考資料等

講義中に随時紹介する

学生に対する評価

講義期間中に、抜き打ちで課題を提示したり、模擬体験をしてもらったりするので、その課題や模擬体験の解決プロセスをリアクションペーパーにまとめて提出してもらう。これを平常点（20%）とし、期末試験の点数（80%）によって成績を決定する。

授業科目名： 地球科学1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小荒井 千人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標			
地球の多様な要素・現象から、それらの成因・メカニズムを読み解き、地球科学についての理解を深める。地球の構造や現象を地球史的な視点を踏まえ論理的な考察を通して、科学的な地球観を持つことで過去から現在に至る地球環境を理解することを目標とする。			
授業の概要			
地球環境の重要な要素となる、岩石や鉱物などを扱う固体地球科学、海洋や大気を扱う流体地球科学、太陽系の形成などを扱う宇宙地球科学の各分野の事象とそのメカニズムを理解する。そして、大陸の配置、大気、海洋などの現在の地球環境が、広大な空間で長大な時間を費やした変遷の結果として成立していることを理解し、地球環境に対する思考を深める。			
授業計画			
第1回：地球の概観（形と大きさ）			
第2回：地球深部の構造			
第3回：地球表層部の構造とアイソスタシー			
第4回：大陸移動説から海洋底拡大説へ			
第5回：海洋底プレートと発散型プレート境界			
第6回：収束型プレート境界・付加体の形成			
第7回：構造浸食型プレート境界と沈み込み帯の地震			
第8回：付加体の火成活動と変成作用			
第9回：プレートの衝突境界と大陸の成長			
第10回：プレートテクトニクス・プルームテクトニクス			
第11回：大気層構造			
第12回：地球の熱収支			
第13回：大気の大循環			
第14回：海洋の構造と大循環			
第15回：地球と陸域の水循環			
定期試験			
テキスト			
新地学図表（浜島書店編集部、浜島書店）			

参考書・参考資料等

資源・エネルギー工学要論（世良 力著、東京化学同人）、地球惑星科学入門（在田一則・竹下 徹・見延庄士郎・渡部重十 著、北海道大学出版会）、地球科学入門（平 朝彦、海洋研究開発機構著、講談社）

学生に対する評価

定期試験（100％）。

授業科目名： 地球科学2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小荒井 千人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>地球の多様な要素・現象から、それらの成因・メカニズムを読み解き、地球科学についての理解を深める。地球の構造や現象を地球史的な視点を踏まえ論理的な考察を通して、科学的な地球観を持つことで過去から現在に至る地球環境の変遷を踏まえ、地球の将来像を見据え現在の地球の姿を理解することを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>地球環境の重要な要素となる、岩石や鉱物などを扱う固体地球科学、海洋や大気を扱う流体地球科学、太陽系の形成などを扱う宇宙地球科学の各分野の事象とそのメカニズムを理解する。そして、現在の地球の多様な地形や岩石、火山活動、さまざまな地下資源は、広大な空間で長大な時間を費やした変遷の結果として成立していることを理解し、地球環境に対する思考を深める。これらの学びを礎に、持続可能な社会システムの維持・資源エネルギーの確保と開発などを見据え、将来も含めた地球科学に基づく地球観を拡張する。</p>			
授業計画			
第1回：鉱物（1）有色鉱物			
第2回：鉱物（2）無色鉱物			
第3回：火成岩の分類と結晶分化作用			
第4回：火山噴火のメカニズム			
第5回：火山の形とマグマの性質			
第6回：地球エネルギー資源・金属鉱物資源			
第7回：堆積岩・地層の形成と層位学			
第8回：河川の働きと地形作用・風化と土壌の形成			
第9回：地球環境の変遷と生物進化（1）（太陽系の天体の形成）			
第10回：地球環境の変遷と生物進化（2）（先カンブリア時代）			
第11回：地球環境の変遷と生物進化（3）（古生代）			
第12回：地球環境の変遷と生物進化（4）（中生代・新生代）			
第13回：日本列島形成史（1）（大陸縁辺での付加体形成と日本海拡大）			
第14回：日本列島形成史（2）（弧状列島の形成と東西圧縮に伴う地形の形成）			
第15回：人類の進化と第四紀の自然環境			

定期試験

テキスト

新地学図表（浜島書店編集部、浜島書店）

参考書・参考資料等

資源・エネルギー工学要論（世良 力著、東京化学同人）、地球惑星科学入門（在田一則・竹下 徹・見延庄士郎・渡部重十 著、北海道大学出版会）、地球科学入門（平 朝彦、海洋研究開発機構著、講談社）

学生に対する評価

定期試験（100％）。

授業科目名： ラボラトリー・フィジックス	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 3単位	担当教員名： 市田正夫、秋宗秀俊、大田泉、東谷篤志、金大貴、長谷川能三、橋本久美子、中村賢志、山崎篤志
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 実験を通して物理学の基礎概念、実験装置、測定法の原理が理解できるようになる。測定値から物理量を得ることができるようになる。実験結果を報告書にまとめ、報告会で発表することによって、論理的でわかりやすいプレゼンテーションができるようになる。			
授業の概要 力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は、ボルダの振り子、波の干渉、等電位線、弦の振動などである。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。			
授業計画（実験者の組によって題目が異なる。一つの例をつぎに示す。） 第1回：ガイダンス 第2回：実験1：統計と誤差 第3回：データ処理指導 第4回：実験1の報告会 第5回：実験2：例えば 誘電率 第6回：実験2の報告会 第7回：実験3：例えば、ボルダの振り子 第8回：実験3の報告会 第9回：実験4：例えば 等電位線 第10回：実験4の報告会 第11回：実験5：例えば ニュートンリング 第12回：実験5の報告会 第13回：実験6：例えば レンズの焦点距離 第14回：実験6の報告会 第15回：実験法			

定期試験は実施しない。

テキスト

「ラボラトリー・フィジックス...実験ガイド...」(甲南大学理工学部物理学科編:配布)

参考書・参考資料等

「物理学実験」吉川泰三編(学術図書出版社 1996年)

「理科年表」国立天文台編(丸善)

学生に対する評価

(1)実験(30%)、(2)報告会での発表(30%)、(3)レポート(40%)の三項目の内容により評価する。

授業科目名： ラボラトリー・ケミストリー	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 3単位	担当教員名： 木本篤志、町田信也、下条晃司郎、田村宏、前田耕治、松田厚範 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 各回の実験とレポート作成を通じて、以下の目標を達成することを目指す。 (1) 各実験の目的と関連する化学原理を理解する。 (2) 実験準備としての文献調査の重要性を理解し、適切な文献の調べ方および引用方法を実践する。 (3) 実験結果の記録とデータ処理の方法を習得し、結果を表やグラフにまとめる技術を身につける。 (4) 文献調査と実験結果を総合して考察し、適切な結論を導き出す。 (5) 以上を踏まえ、適切な形式のレポートを作成する。			
授業の概要 この科目の目的は、化学分野における基本的な法則や事実を、自ら実験を通じて確認することにある。取り上げる実験内容は既に確立されたものであるが、実験データから一般的な事実や普遍的な法則を導くことは、理工系の学問の根幹である。また、実験から結論を導くための一連の作業（文献調査、実験データの記録、データ処理、図表の作成、実験結果の考察など）は、理工系の学問全体に必須の技能である。化学に関連した4つのテーマについて実験を行い、化学分野の基本的な概念や実験操作を学ぶとともに、理工系の学問全体に共通する技能の習得を目指します。			
授業計画 第1週 第1回～第3回：実験結果の記録と報告、有機化学実験の理論と概要（担当：木本） 第2週 第4回～第6回：実験の安全（担当：木本）、無機化学実験の理論と概要（担当：町田） 第3週 第7回～第9回：計算化学実験の概要（担当：田村）、分析化学実験の理論と概要（担当：下条） 第4週 第10回～第12回：無機化学実験（定性分析）：金属イオンの反応（担当：町田、松田） 第5週 第13回～第15回：無機化学実験（定性分析）：金属イオンの混合既知試料の分離確認（担当：町田、松田）			

第6週 第16回～第18回：無機化学実験（定性分析）：金属イオンの混合未知試料の分離確認（担当：町田、松田）

第7週 第19回～第21回：分析化学実験（定量分析）：中和滴定（担当：下条）

第8週 第22回～第24回：分析化学実験（定量分析）：中和滴定による濃度決定（担当：下条）

第9週 第25回～第27回：分析化学実験（定量分析）：酸化還元滴定（担当：下条）

第10週 第28回～第30回：有機化学実験：有機色素の合成（担当：木本、前田）

第11週 第31回～第33回：有機化学実験：高分子の合成（担当：木本、前田）

第12週 第34回～第36回：有機化学実験：有機色素、高分子の評価（担当：木本、前田）

第13週 第37回～第39回：計算化学実験：量子化学計算の準備（担当：田村）

第14週 第40回～第42回：計算化学実験：量子化学計算による構造の見積もり（担当：田村）

第15週 第43回～第45回：計算化学実験：量子化学計算によるエネルギーの見積もり（担当：田村）

テキスト

「ラボラトリー・ケミストリー」 甲南大学理工学部環境・エネルギー工学科編

参考書・参考資料等

「ブラックマン 基礎化学」 A. Blackman 他著 東京化学同人

「基礎化学選書2 分析化学（改訂版）」 長島弘三・富田功共著 裳華房

「第8版 実験を安全に行うために」 化学同人編集部編 化学同人

「安全要覧」 甲南大学理工学部編

学生に対する評価

理解度（70%）と出席態度およびマナー（実験ノートの記録状況など）（30%）により評価する。理解度はレポートの内容（40%）と平常の実験状況（30%）により評価する。実験科目では全実験に出席することが前提となっているが、無欠席でも単位を与えないことがありうる。

授業科目名： 基礎生物学実験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 3単位	担当教員名： 渡辺洋平、今井博之、本多大輔、向正則、日下部岳広、久原篤、武田鋼二郎、上田晴子、後藤彩子、太田茜、樋口里樹
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 生物学の基礎的な実験技術の修得と原理を理解すること。			
授業の概要 生物学は自然の中の動植物の観察、分類、ある条件下での生命現象の解析などの段階を経て研究が発展し、知識が深められて来た。本実験科目では、高等学校時代に生物に接する機会の少ない現状のもと、初めて生物学を学ぼうとする人々にとって、「自然から学ぶ」姿勢を養う目的で実験を組んだ。はじめに、ミクロとマクロの形態観察を中心とした実験を行い、次いで、生理的また生化学的手法による生体反応や生体成分の実験を計画した。生体の基本構造の観察、理解に始まって、その機能的な面まで、系統的に理解し、専門的な段階に移行する基礎段階として位置づけている。			
授業計画 第1回：一般的注意、座席指定、顕微鏡貸出（渡辺） 第2回：カタラーゼの酵素活性（渡辺） 第3回：生物学で使用するガラス器具の取扱い（今井） 第4回：淡水産プランクトンの観察（本多） 第5回：シロアリ腸内寄生生物の観察（樋口） 第6回：植物組織の観察（上田） 第7回：土壌の生物の観察（久原、太田） 第8回：ショウジョウバエの観察（向） 第9回：アリの観察（後藤） 第10回：ゾウリムシの観察と浸透圧調節（樋口） 第11回：動物組織の観察（樋口） 第12回：様々な微生物の観察（武田）			

第 13 回：ホヤの観察（日下部）

第 14 回：遠心機の原理とユープロテスの細胞周期（樋口）

第 15 回：まとめ、顕微鏡返却（渡辺）

テキスト

必要なプリントなどは配布する。

参考書・参考資料等

「生物の実験法 I、II、III」宇津木和夫 他著（培風館 1982 年）

学生に対する評価

各実験ごとに提出されるレポートの成績によって評価する。

授業科目名： 地学実験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 3単位	担当教員名：小荒井千人、三木雅子、松本邦勝 担当形態： オムニバス・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>地学の多様な事象について、それらが生じる仕組みを観察・実験から得たデータ分析を基に考察し理解を深める。そして、地学の各分野の実験の原理を理解し、機器操作や野外調査の技能を習得し、データを適切に処理しレポートとしてまとめる能力の修得を目指す。</p>			
授業の概要			
<p>宇宙科学・天文学、大気圏の科学、固体地球物理学、地質学・古生物学など、地学分野全般にわたる野外調査を含めた実験・観測とそのデータ処理方法を修得する。通常の授業のほかに、前期と後期に1回ずつ、土日に1泊2日での天体観測と地質野外実習を行う。各実験のレポートは、レポート作成・指導の一斉授業時間を設定するとともに、適切なレベルに達するまで修正を求める形で、他の実験時間と並行して個別指導で繰り返しフィードバックを行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：地質概説（担当：小荒井） 第2回：地質調査法（担当：小荒井） 第3回：天文概説1（担当：小荒井） 第4回：岩石の分類と鑑定 / 天文概説2（担当：小荒井） 第5回：天体観測法（担当：小荒井） 第6-10回（連続授業）：地質学分野の野外実習（担当：小荒井、松本） 第11-13回（連続授業）：セオドライトを用いた天体の位置の観測（担当：小荒井、松本） 第14回：天体の位置の地平座標から赤道座標への変換（担当：小荒井） 第15回：地質学分野の野外実習・セオドライトを用いた天体の位置の観測のレポート作成法（担当：小荒井） 第16回：立体地形図模型と地質図を用いた地質の三次元的理解（担当：小荒井） 第17回：レポート指導（担当：小荒井） 第18回：地磁気偏角の測定（担当：三木） 第19回：地磁気水平分力の測定（担当：三木） 第20回：地磁気測定結果の処理法（担当：三木） 第21回：岩石薄片試料の作成（担当：小荒井）</p>			

<p>第22回：造岩鉱物の種類（担当：小荒井）</p> <p>第23回：偏光顕微鏡による鉱物の鑑定（担当：小荒井）</p> <p>第24回：機能形態学を用いた化石の観察と考察（担当：小荒井）</p> <p>第25回：微化石の抽出と古環境の推定（担当：小荒井）</p> <p>第26回：天気図作成法（担当：松本）</p> <p>第27回：天気図作成演習（担当：松本）</p> <p>第28回：数値予報演習（担当：松本）</p> <p>第29回：トリチェリーの実験と回転水槽による大気大循環の実験（担当：松本）</p> <p>第30回：火星軌道の作成（担当：三木）</p> <p>第31回：HR図の作成（担当：三木）</p> <p>第32回：太陽望遠鏡を用いた太陽表面の観察（担当：小荒井）</p> <p>第33-35回（連続授業）：天体望遠鏡による月・惑星・恒星の観測（担当：小荒井、松本）</p> <p>第36-40回（連続授業）：地質分野の野外実習（担当：小荒井、松本）</p> <p>第41回：地質調査記録からの地史の復元（担当：小荒井）</p> <p>第42回：天体観測の結果の解析（担当：小荒井、松本）</p> <p>第43回：地質分野の野外実習・天体望遠鏡による月・惑星・恒星の観測のレポート作成（担当：小荒井、松本）</p> <p>第44回：気球による高層風の観測（担当：三木）</p> <p>第45回：レポートのフィードバック（担当：小荒井、三木、松本）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>各実験・観測で、教員作成のテキストまたは実験説明書を適宜配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「実験ノートの書き方」（化学同人）、「レポート・論文のまとめ方」（すばる舎）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>実験ごとに提出する実験レポートで評価する（100%）。</p>

授業科目名： 科学実験基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山本雅博, 池田茂, 下条晃司 郎
			担当形態： オムニバス・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標			
科学分野における研究者・技術者になるには、決められた作法によって正確な実験ができることが求められる。本実験ではその作法について習得することを目標とする。			
授業の概要			
本講義では、大学での科学実験に初めて触れる学生を対象に、これまで講義や書籍で得た知識でしかなかった事柄について体験的に学習するとともに、科学への興味と理解を深めることを目的としている。さらに、科学実験における基礎的操作の習得、観察力と洞察力の養成、レポート作成技術、実験室における安全および基本的マナーの体得を目的とする。			
授業計画 1 単位 8 週×2 時間＝16 回			
第1週 第1回～第2回：ガイダンス：全体講義、安全講義（担当：山本）			
第2週 第3回～第4回：実験講義：基本的な実験操作（担当：下条）			
第3週 第5回～第6回：実験講義：物理量と国際単位、測定の確からしさ（担当：池田）			
第4週 第7回～第8回：実験講義：有効数字、誤差の伝播、検定と異常データの棄却（担当：山本）			
第5週 第9回～第10回：測容器の検定（1）（講義＋実験）（担当：山本、池田、下条）			
第6週 第11回～第12回：測容器の検定（2）（講義＋実験）（担当：山本、池田、下条）			
第7週 第13回～第14回：測容器の検定（3）（講義＋実験）（担当：山本、池田、下条）			
第8週 第15回～第16回：実験講義：最終まとめ及びレポート作成について担当：山本）			
テキスト			
「科学実験基礎」 甲南大学理工学部環境・エネルギー工学科編			
「実験データを正しく扱うために」化学同人編集部編 化学同人			
参考書・参考資料等			
「第8版 実験を安全に行うために」 化学同人編集部編 化学同人			
「安全要覧」 甲南大学理工学部編			
学生に対する評価			
出席、マナー、レポート、平常の実験状況ならびに適宜行う確認テストの内容を総合して判断			

する。また、実験科目であるので全ての実験に出席することが前提となっている。なお、レポートについては実験結果そのものの成否ではなく、自分が行った実験について忠実に細大漏らさず記載していること、ならびにこれに関する考察が重要視される。

授業科目名： 環境・エネルギー工学 実験1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 池田茂、野瀬嘉太郎、山本雅 博、前田耕治、松田厚範、山 方啓、井本裕頭 担当形態： オムニバス・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 各回の実験についての事前準備・学修と実験の実施を通じて、以下の目標を達成することを目指す。 (1) 各実験の概念、原理、手法およびデータの解析法を修得する。 (2) 得られた結果を、あらゆる観点から考察する研究態度を養う。 (3) 正しい実験記録およびレポートの書き方を身につける。 (4) 適切な役割分担をグループ内で行い、効率的な機器の使用やデータの解析が実施できるようになる。			
授業の概要 本講義では、機器を用いて物質の構造、性質、反応などを定量的に測定する実験を行う。実験結果の解釈や誤差の統計処理、議論（Discussion）を通じて、定量性を重視した分析を学ぶ。得られた結果が常識と明らかに異なる場合、その理由を究明し再実験を行うことが求められる。また、実験記録やレポートの書き方についても指導し、科学的な記述能力の向上を目指す。このように、本講義では実験の正確さとデータ解析の重要性を理解し、研究者としての基礎を養うことを目的とする。本実験は環境・エネルギー工学に関する理解を深めるために重要な4つの分野に関する実験を行う。			
第1週 第1回～第3回：実験の記録と報告（担当：山本）、材料物性実験の理論（担当：野瀬） 第2週 第4回～第6回：実験の安全（担当：山本）、機器分析実験の理論（担当：池田） 第3週 第7回～第9回：材料物性実験の概要（担当：野瀬）、機器分析実験の概要（担当：池田） 第4週 第10回～第12回：半導体に関する実験：透明導電膜の成膜と物性評価（池田、井本）			

第5週 第13回～第15回：半導体に関する実験：光触媒反応（池田、井本）
 第6週 第16回～第18回：半導体に関する実験：電子顕微鏡（池田、井本）
 第7週 第19回～第21回：物理化学に関する実験：水の凝固点降下（山本、松田）
 第8週 第22回～第24回：物理化学に関する実験：固相－液相間の拡散現象（山本、松田）
 第9週 第25回～第27回：物理化学に関する実験：電解質溶液の伝導率（山本、松田）
 第10週 第28回～第30回：材料科学に関する実験：相平衡状態図（野瀬、山方）
 第11週 第31回～第33回：材料科学に関する実験：X線回折（野瀬、山方）
 第12週 第34回～第36回：材料科学に関する実験：磁化率の測定（野瀬、山方）
 第13週 第37回～第39回：計測科学に関する実験：錯体の電子スペクトル（前田）
 第14週 第40回～第42回：計測科学に関する実験：基礎電気化学測定（前田）
 第15週 第43回～第45回：計測科学に関する実験：応用電気化学測定（前田）

テキスト

「環境・エネルギー工学実験1」 甲南大学理工学部環境・エネルギー工学科編

参考書・参考資料等

「物理化学実験法（改訂版）」後藤廉平編（共立出版 1965年）

「X線構造解析：原子の配列を決める」早稻田嘉夫、松原英一郎著（内田老鶴圃 1998年）

「第8版 実験を安全に行うために」 化学同人編集部編 化学同人

「安全要覧」 甲南大学理工学部編

学生に対する評価

理解度（60%）と出席及びマナー（実験ノートの記録状況など）（40%）に基づいて行う。理解度は、レポートの内容（30%）と日常の実験状況（30%）を総合して判断する。なお、実験科目では全ての実験に出席することが前提であるが、欠席がない場合でも単位が認定されない可能性がある。

授業科目名： 理科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小荒井千人、筒井和幸、堀川 理介、森中敏行、青木珠緒、 片桐幸輔、後藤彩子 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>理科教員としての指導力の基礎となる理科教育の基本的な考え方を身につけるために、科学と教育の関係を中心に理科教育とは何かを考察する。また、物理・化学・生物・地学にわたる自然科学の多様性と学問的性質の違いが、理科教育では具体的にどのような内容展開や観察・実験の違いとして現れているかを学ぶ。さらに、実際の教育・指導場面において必要な諸能力～留意点についても概観する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>9月中の土日の4日間、物理・化学・生物・地学を1日ずつの集中講義で行う。授業は、5分前には入室していること（この科目の遅刻は、先生が遅刻するのと同じで、不適格者と見なします）。それぞれの分野の専門家が指導する。授業中に小課題が課されるが、授業時間中に口頭・演示その他の方法でフィードバックされる。物理はデジタル教材を取り入れた講義、化学は実物デモ実験を取り入れた講義、生物は講義と演習、地学は講義を中心とする。物理・化学・生物・地学の分野ごとに、それぞれの専門の教員が中心に担当する（物理：筒井、化学：堀川、生物：森中、地学：小荒井）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【地学分野および全般】（第1-3回）担当：小荒井</p> <p>学校の教科教育全体の中での理科教育の位置づけ、さらにその中での地学教育の位置づけを、自然科学の中での地学分野の諸科学の果たしている役割を通して考える。また、理科の授業設計の一般的な方法を解説するとともに、地学分野の授業設計において特に留意すべき事柄について解説する。</p> <p>第1回：理科の学習理論及び指導法・評価法の基礎</p> <p>第2回：地学の科学としての特徴と中学校・高等学校の学習指導要領に見る地学教育の意義</p> <p>第3回：中学校・高等学校の地学分野を例とした理科の授業設計・指導計画作成の方法（ICTの活用を含む）</p> <p>【物理分野】（第4-7回）担当：筒井、青木</p> <p>学習者が自然の事象を「物理」を通した科学概念で理解し、その上に立っての自然認識を、如何に青年前期年齢の知的理解に相応のものとして会得させるかについて学ぶことをこの授業の主眼とする</p>			

。自然事象の根幹にある「物理」領域のもつ「必然性」と「基本性」を意識した展開で進める。

第4回：物理学の科学としての特徴と中学校・高等学校の学習指導要領の物理分野の目標とその歴史

第5回：実験を通じた物理分野の教育の意義

第6回：中学校学習指導要領第1分野物理領域の内容と内容の取り扱い（ICTの活用を含む）

第7回：高等学校学習指導要領物理分野の内容と内容の取り扱い（ICTの活用を含む）

【化学分野】（第8-11回）担当：堀川、片桐

科学・技術の発展は人類に物質的な豊さをもたらしたが、その反面陰の部分として地球環境の破壊をもたらしている。また、我が国では理科離れや若者の学問離れがとかくささやかれている。このような時代にあって、これからの化学教育ではどのような能力を期待して指導すればよいかを考察する。化学教育で重要な物質認識（広く自然認識）について、そして認識の方法としての観察・実験の意義について、デモ実験を行いながら考える。

第8回：化学の科学としての特徴と中学校・高等学校の学習指導要領の化学分野の目標とその歴史

第9回：実験を通じた化学分野の教育の意義

第10回：中学校学習指導要領第1分野化学領域の内容と内容の取り扱い（ICTの活用を含む）

第11回：高等学校学習指導要領化学分野の内容と内容の取り扱い（ICTの活用を含む）

【生物分野】（第12-15回）担当：森中、後藤

現行の中学校・高等学校（生物分野）のカリキュラムの内容と構成について解説する。また、生物領域の特徴や生徒の興味・関心を高めるための工夫について述べる。

第12回：生物学の科学としての特徴と中学校・高等学校の学習指導要領の生物分野の目標とその歴史

第13回：観察・実験を通じた生物分野の教育の意義

第14回：中学校学習指導要領第2分野生物領域の内容と内容の取り扱い（ICTの活用を含む）

第15回：高等学校学習指導要領生物分野の内容と内容の取り扱い（ICTの活用を含む）

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」、文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-理科編-」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（理科編・理数編）」、高等学校教科書（「物理基礎」、「物理」、「化学基礎」、「化学」、「生物基礎」、「生物」、「地学基礎」、「地学」※いずれも出版社は問わない。）

参考書・参考資料等

授業に必要な資料（授業担当者自身の作成資料）を授業時に配布するとともに、その中で参考書を紹介する。

学生に対する評価

全分野の授業に出席することが評価の前提である。1日の欠席はいずれかの分野の全欠になるので、単位は出なくなる。また、遅刻・早退等は大きく影響する。評価は、分野毎に講義中に課するレポートや口頭での議論と後日提出する指導案により行う。

授業科目名： 理科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小荒井千人、筒井和幸、堀川 理介、森中敏行、青木珠緒、 片桐幸輔、後藤彩子 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>理科教育法Ⅰで習得した基礎的な教材構成力・授業力を、中学校の学習内容に焦点を当てて強化をはかり、理科教育法Ⅳでの模擬授業に向けて予備実験を含む教材研究と指導案作成を行う。これらの活動を通して、中学校理科における物理・化学・生物・地学の領域の内容の特性を理解するとともに、観察・実験の技能と指導力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、理科教育法Ⅰでの学習成果を活かして、高等学校理科の内容を踏まえつつ、中学校理科の物理・化学・生物・地学の各領域についての授業ができるようになるために、各自が予備実験・教材研究・授業設計・指導案の作成などを行う。講義室（理科教育実験室）には、中学校・高等学校の理科の各分野の観察・実験に用いられる一般的な機器をほぼ整備しているので、これらを活用して自身の自然の事物・現象を探究する能力を高め、全ての分野において観察・実験を効果的に組み込んだ授業設計をする。</p> <p>この過程で、物理・化学・生物・地学のそれぞれを専門とする4名の理科教育教員が、それぞれの課題に関して個別的に相談・指導する。また、各学科の専任教員1名ずつも指導に加わる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>この授業はすべてがアクティブ・ラーニング形式で行われ、基本的には各自が自分の行う物理・化学・生物・地学の各分野の模擬授業の準備を各自のペースで進め、物理・化学・生物・地学ごとに指導案や板書計画・実験マニュアルなどの作成の課題がある。教員はそれらに対して授業時間中に口頭・演示その他の方法で繰り返し個別指導を行う。すべての回についてICTの活用を含む。</p> <p>第1回：中・高の物理の力学分野の実験を通じた現象の探究とそれを組み込んだ授業設計 (担当：筒井、青木)</p> <p>第2回：中・高の物理の波動分野の実験を通じた現象の探究とそれを組み込んだ授業設計 (担当：筒井)</p> <p>第3回：中・高の物理の電磁気分野の実験を通じた現象の探究とそれを組み込んだ授業設計 (担当：筒井)</p>			

第4回：高等学校の物理の原子分野の実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：筒井)

第5回：中・高の地学の地球物理分野の実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：小荒井)

第6回：中・高の化学の物質の構成に関する実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：堀川、片桐)

第7回：中・高の化学の酸と塩基に関する実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：堀川)

第8回：中・高の化学の無機分野に関する実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：堀川)

第9回：中・高の化学の有機分野に関する実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：堀川)

第10回：中・高の地学の岩石・鉱物分野の観察・実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：小荒井)

第11回：中・高の生物の細胞に関する観察・実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：森中、後藤)

第12回：中・高の生物の生殖と発生の観察・実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：森中)

第13回：中・高の生物の遺伝に関する観察・実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：森中)

第14回：中・高の生物の多様性に関する観察・実験を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：森中)

第15回：中・高の地学の地球と生命に関する実習を通じた事象の探究とそれを組み込んだ授業設計

(担当：小荒井)

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」、文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-理科編-」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（理科編・理数編）」、高等学校教科書（「物理基礎」、「物理」、「化学基礎」、「化学」、「生物基礎」、「生物」、「地学基礎」、「地学」※いずれも出版社は問わない。）

参考書・参考資料等

授業に必要な資料（授業担当者自身の作成資料）を授業時に配布するとともに、その中で参考書を紹介する。

学生に対する評価

理科教育法Ⅰで習得した中学校理科の基礎的な教材構成力・授業力が、物理・化学・生物・

地学の領域毎に実践的なレベルでどの程度強化されたかを評価する。具体的には、実験の準備状況と、提出された指導案とそれに対する修正意見に沿っての改善の結果により評価する。

授業科目名： 理科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小荒井千人、筒井和幸、堀川 理介、森中敏行、青木珠緒、 片桐幸輔、後藤彩子
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校及び高等学校における理科の内容についての教材研究を深め、生徒の認識・思考、学力等を視野に入れた学習指導案を作成し、適切な板書計画や口頭表現ができるようになる。</p> <p>理科教育法Ⅰで習得した基礎的な教材構成力・授業力を、高等学校の学習内容に焦点を当てて強化をはかり、理科教育法Ⅳを中心として行う物理・化学・生物・地学の各模擬授業に向けて予備実験を含む教材研究と指導案作成ができるようになることを直接の到達目標に設定する。また、これらの活動を通して、主として高等学校理科における物理・化学・生物・地学の領域の内容の特性を理解するとともに、観察・実験の技能と指導力を身につけることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>9月下旬～12月中旬の主に月曜日の5限、土曜日の3、4、5限に集中講義として実施する。この授業はすべてがアクティブ・ラーニング形式で行われ、各自が行う物理・化学・生物・地学の模擬授業に向けてのその単元の実験の準備を理科教育実験室の実験設備を用いて行う。そして、教材研究を深め、学習指導案・板書計画などを作成する。これら模擬授業に向けての準備は、基本的には各自の内容を各自のペースで進めていくが、各段階で物理・化学・生物・地学の各分野の教員による口頭・演示その他の方法での個別指導を受ける。物理・化学・生物・地学の分野ごとに、それぞれの専門の教員が中心に担当する（物理：筒井、化学：堀川、生物：森中、地学：小荒井）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中・高の物理の力学分野の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：筒井、青木）</p> <p>第2回：中・高の物理の波動分野の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：筒井）</p> <p>第3回：中・高の物理の電磁気分野の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：筒井）</p> <p>第4回：中・高の物理の原子分野の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：筒井）</p> <p>第5回：中・高の地学の地球物理分野の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：小荒井）</p> <p>第6回：中・高の化学の物質の構成に関する教材研究と学習指導案の作成（担当：堀川、片桐）</p> <p>第7回：中・高の化学の酸と塩基に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：堀川）</p> <p>第8回：中・高の化学の無機分野に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：堀川）</p>			

第9回：中・高の化学の有機分野に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：堀川）

第10回：中・高の地学の岩石・鉱物分野の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：小荒井）

第11回：中・高の生物の細胞に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：森中、後藤）

第12回：中・高の生物の生殖と発生の教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：森中）

第13回：中・高の生物の遺伝に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：森中）

第14回：中・高の生物の多様性に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：森中）

第15回：中・高の地学の地球と生命に関する教材研究と学習指導案・板書計画の作成（担当：小荒井）

上記すべての回についてICTの活用を含む。

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」、文部省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-理科編-」、文部省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（理科編・理数編）」、高等学校教科書（「物理基礎」、「物理」、「化学基礎」、「化学」、「生物基礎」、「生物」、「地学基礎」、「地学」※いずれも出版社は問わない。）

参考書・参考資料等

授業に必要な資料（授業担当者自身の作成資料）を授業時に配布するとともに、その中で参考書を紹介する。

学生に対する評価

理科教育法Iで習得した高等学校理科の基礎的な教材構成力・授業力が、物理・化学・生物・地学の領域毎に実践的なレベルでどの程度強化されたかを評価する。具体的には、実験の準備状況と、提出された指導案とそれに対する修正意見に沿っての改善の結果により評価する。

授業科目名： 理科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小荒井千人、筒井和幸、堀川 理介、森中敏行、青木珠緒、 片桐幸輔、後藤彩子 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育実習において中学校・高等学校の理科の全分野の授業を、大きな問題がない程度に実施できる基礎的な指導力を身に付け、中学校及び高等学校の理科の物理・化学・生物・地学の分野の任意の単元について、適切な教材・実験を構成し、円滑な授業展開をできる実践的な能力を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>12月の日曜日、3日間の集中授業で実施する。この講義はすべてがアクティブラーニング形式で、全員が各分野の観察・実験を取り入れた15～30分程度の模擬授業を行い、それぞれの模擬授業ごとに課題や改善策について学生と教員全員で15～20分程度議論する。この議論で指摘し合うことで自らの模擬授業の改善に資すると共に、教員からは関連する発展的な内容と実践研究の動向が紹介される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：物理の力学分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：筒井、青木） 第2回：物理の波動分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：筒井、青木） 第3回：物理の電磁気分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：筒井、青木） 第4回：物理の原子分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：筒井、青木） 第5回：地学の地球物理分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：小荒井） 第6回：化学の物質の構成の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：堀川、片桐） 第7回：化学の酸と塩基の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：堀川、片桐） 第8回：化学の無機分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：堀川、片桐） 第9回：化学の有機分野の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：堀川、片桐） 第10回：地学の岩石・鉱物分野の模擬授業とその改善と実践研究の動向（担当：小荒井） 第11回：生物の細胞に関する模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：森中、後藤） 第12回：生物の生殖と発生の模擬授業とその改善と実践研究の動向（担当：森中、後藤） 第13回：生物の遺伝の模擬授業の実施とその改善と実践研究の動向（担当：森中、後藤） 第14回：生物の多様性に関する模擬授業とその改善と実践研究の動向（担当：森中、後藤）</p>			

第15回：地球と生命に関する模擬授業とその改善と実践研究の動向（担当：小荒井）

上記すべての回についてICTの活用を含む。

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」、文部科学省編「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-理科編-」、文部科学省編「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（理科編・理数編）」、高等学校教科書（「物理基礎」、「物理」、「化学基礎」、「化学」、「生物基礎」、「生物」、「地学基礎」、「地学」※いずれも出版社は問わない。）

参考書・参考資料等

授業に必要な資料（授業担当者自身の作成資料）を授業時に配布するとともに、その中で参考書を紹介する。

学生に対する評価

全分野の授業に出席することを評価の前提とする。1日の欠席は一つの分野の全欠となるので、単位は出なくなる。また、遅刻・早退は、教員としての自覚が疑われるので大きく影響する。評価は主に次の2つによる。

1. レポート（模擬授業内容の指導案、その他）
2. 本人の模擬授業の内容と、他者の模擬授業へのコメント

授業科目名： 学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣田 千鶴子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
○学校教育の抱える今日的課題を踏まえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき役割を理解し、意欲的・創造的に活動する学校図書館司書の輩出をめざす。			
授業の概要			
学校経営との関係性を明確にし、下記の点について重点的に扱う。			
○学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、その理念と発達の課題及び教育行政とのかかわりなど、学校図書館経営の全般について基本的理解を図る。			
○学校図書館経営を担う司書教諭の任務と役割を明確にし、学校内外の協力体制づくりや司書教諭としての資質向上の重要性に触れる。			
○学校図書館メディアの構成や学校図書館活動、他の館種も含めた図書館ネットワークづくりなどについて、基本的理解を図る。			
第1回：今、なぜ学校図書館なのか。社会の変化と学校教育			
第2回：学校図書館の理念と教育的意義			
第3回：学校教育における学校図書館の位置づけとその変遷			
第4回：日本の学校図書館の発展と課題			
第5回：ジョン・ジューイと学校図書館の理念			
第6回：学校図書館の国際的な動向と将来への展望			
第7回：教育行政と学校図書館			
第8回：学校図書館環境と整備			
第9回：学校図書館のマネジメント			
第10回：学校図書館の経営組織			
第11回：司書教諭の任務と職務			
第12回：学校図書館メディアの構築と管理			
第13回：発達段階に応じた学校図書館メディアの選択			
第14回：学校図書館活動			
第15回：学校図書館が築くネットワーク			
テキスト			
「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 堀川照代 著 悠光堂			

参考書・参考資料等

時事的なものを必要に応じて配付する

学生に対する評価

定期試験（55％） 提出物（45％）

授業科目名： 学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣田 千鶴子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
○児童・生徒の情報活用能力育成のための指導の理論と実際について理解する。			
○指導に当たる教職員等への情報サービスや授業支援のあり方などについて理解する。			
授業の概要			
○今日の児童・生徒には、知識基盤社会・高度情報通信社会に生きるための知識や概念、スキルなどを駆使して、多様な課題に立ち向かう意欲や行動力が求められている。			
○学校図書館は、こうした児童・生徒に対し、読書センターだけでなく学習・情報センターとしての機能を発揮し、教科、領域、道德教育などの学習指導と連携・協働して学習指導の展開や学習活動を支え、それぞれの学校教育目標を達成するという重要な役割を担っている。			
○本講義では、学校図書館を活用した学習指導・学習活動が効果的かつ積極的に行われるために、学校図書館メディアを選択・収集し活用して研究・調査した結果を発表するまでの能力（情報活用能力）の育成について、具体的・実践的に学ぶ。			
第1回：21世紀の教育と学校図書館			
第2回：教育課程の編成と学校図書館			
第3回：学習・情報センターとしての学校図書館			
第4回：情報教育の推進と司書教諭の役割			
第5回：高度情報化社会としての現代			
第6回：主体的な学習と情報活用能力の育成			
第7回：情報探索のプロセスと「問題解決」そして「批判的思考」			
第8回：情報活用能力の育成の計画・内容			
第9回：情報活用能力育成の指導と評価			
第10回：学習過程と図書館メディアの活用			
第11回：教科指導と図書館メディア活用の実際			
第12回：「調べ学習」と司書教諭の役割			
第13回：学校書館における情報サービス			
第14回：レファレンス・サービスの実際			
第15回：教職員に対する支援と働きかけ			
テキスト			

「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 堀川照代 著 悠光堂

参考書・参考資料等

「学び方を養う『学校図書館』」増田信一 著 学芸図書

「学校図書館・司書教諭演習資料」 全国学校図書館協議会

学生に対する評価

定期試験（55％） 提出物（45％）

授業科目名： 学校図書館メディア の構成	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 幸二 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校図書館におけるコレクション構築およびメディアの組織化に必要な分類・目録法の理論と実際を学び、基礎的な実務能力を身につける。			
授業の概要 学校教育における多様な学習環境として、教室だけでなく学校図書館を活用した授業が求められている。調べ学習では、主体的に図書館メディアを探すことのできる環境が重要になっている。このようなことから、学校教育に果たす学校図書館メディアの役割をふまえ、メディアの種類や特性、組織化（分類、件名、目録）についての理解と実務能力の育成を図る。特に、日本十進分類法、基本件名標目表、日本目録規則の解説をもとに、組織化の理論と実際についての理解を図る。また、多様な学習環境と学校図書館のコレクション構築にも触れる。			
授業計画 第1回：メディアの構成の考え方、メディアの種類・収集および組織化 第2回：主題からの検索、分類・目録法の概要 第3回：NDCの概要、NDC：0類（総記）について 第4回：NDC：1類（哲学・宗教）、2類（歴史）、3類（社会科学）について 第5回：NDC：4類（自然科学）、5類（技術）、6類（産業）について 第6回：NDC：7類（芸術）、8類（言語）、9類（文学）について、別置記号 第7回：目録の意義と目録規則、NCRの概要 第8回：NCRによる記入の作成（記述） 第9回：NCRによる記入の作成（標目）、アクセス・ポイント 第10回：主題目録、件名とシソーラス 第11回：件名作業、BSHの概要 第12回：コンピュータによる目録システム 第13回：多様な学習環境と学校図書館メディアの構成 第14回：学校図書館メディア活用能力の育成 第15回：まとめ、学習到達度確認 定期試験は実施しない。			
テキスト			

分類・目録法入門（新改訂第6版）メディアの構成（志保田務・田村俊明・村上幸二改訂、第一法規）

参考書・参考資料等

授業の中で適宜指示する。

学生に対する評価

授業に対する積極性・課題（50%）、学習到達度確認（50%）

授業科目名： 読書と豊かな人間性	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣田 千鶴子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
○児童・青少年の読書の実態、学校や公共図書館での読書活動の現状を理解し、人間形成における読書の意義やサービスについて考えることができるようになる。また、司書教諭として児童・青少年の発達段階における読書の理論に理解を求めることができる。さらに、読書指導の具体的な方法を習得し実践することができるようになる。			
授業の概要			
○人間形成の発達段階における読書の役割や児童サービスの意義を概説する。また、読書活動の具体的な方法を解説し、4種類の読書活動を実践事例として取り上げる。学習支援や読書活動の推進では、学校・学校図書館と公共図書館の連携・協力について扱う。			
第1回：読書と豊かな人間性とは			
第2回：子どもの生活と読書			
第3回：児童資料の種類と特色			
第4回：児童資料コレクションの形成と管理			
第5回：学校図書館における読書の諸活動と運営			
第6回：子どもと本をつなぐ手法（1）読み聞かせ（絵本と紙芝居）			
第7回：子どもと本をつなぐ手法（2）ビブリオバトルとシナリオづくり			
第8回：子どもと本をつなぐ手法（3）ビブリオバトルの実践（演習）			
第9回：子どもと本をつなぐ手法（4）本の帯 ポップのねらいと作成（演習）			
第10回：子どもと本をつなぐ手法（5）読書会における対話的な学び			
第11回：子どもと本をつなぐ手法（6）読書会における対話的な学び（演習）			
第12回：特別支援の必要な子どもたちへの取り組み			
第13回：子どもの読書活動の推進と公共図書館との連携			
第14回：学校図書館担当者のキャリアアップ			
第15回：家庭や地域と連携した読書活動の構想 読書活動についての指導案作成			
テキスト			
指定はありません			
参考書・参考資料等			
学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）			

○『児童サービス論』（JLA図書館情報テキストシリーズⅢ6）堀川照代 編著 日本図書館協会
2014年2月

○『読書と豊かな人間性』米谷茂則・岩崎れい 放送大学教育振興会 2020年6月

学生に対する評価

定期試験（55%） 演習と提出物（45%）

授業科目名： 情報メディアの活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 幸二
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校図書館に関連する多様な情報メディアの特性や利用法について学び、情報メディアを活用するための基礎的知識を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>学校教育の情報化が急速に進展している現在、情報を活用した学びのあり方が大きく問われている。そのような中で学校図書館の情報メディアの活用は、情報を活用した学校教育の学びに大きく貢献するものと期待されている。学校図書館の情報メディアについての知識と理解を深めるには、コンピュータシステムの基礎的な知識をはじめ、データベースや情報検索についての理解、およびインターネットに関連する技術的な知識が必要となる。これらをふまえ、司書教諭として実際に情報メディアを活用できる能力を身につけられるよう解説する。</p>			
授業計画			
第1回：情報社会と情報メディアの発達			
第2回：学校図書館における情報メディアの特性と選択			
第3回：視聴覚メディアと図書館			
第4回：学校図書館における情報活用能力の育成			
第5回：インターネットによる情報発信			
第6回：データベースと検索エンジン			
第7回：図書館における情報メディアの現状・将来・課題			
第8回：情報メディアを取り巻く制度と政策			
第9回：情報メディアの管理とその技術			
第10回：学校図書館メディアと著作権			
第11回：教育用ソフトウェアと情報機器			
第12回：情報教育と学校図書館メディア			
第13回：図書館におけるコンピュータの活用と管理			
第14回：新たな情報技術と図書館			
第15回：まとめ、学習到達度確認			
定期試験は実施しない。			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 授業に対する積極性・課題（50%）、学習到達度確認（50%）

授業科目名： 道徳指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高校学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 龍神 美和 担当形態： 単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校） ・大学が独自に設定する科目（高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	（中学校）道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。</p> <p>道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、「道徳とは何か」および、歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと、新学習指導要領に基づく道徳科のねらいを理解する。また、子どもの心の成長と道徳性の発達についての理解をもとに、道徳科の特質をいかした多様な指導方法の特徴や道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解したうえで、授業のねらいや指導過程を明確にして学習指導案を作成し、模擬的な授業を行う。模擬授業について、リフレクションを行い道徳科の授業改善の視点を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：道徳の本質（道徳とは何か）</p> <p>第2回：道徳教育の歴史</p> <p>第3回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）</p> <p>第4回：子供の心の成長と道徳性の発達</p> <p>第5回：学習指導要領と道徳教育</p> <p>第6回：道徳科の目標及び主な内容</p> <p>第7回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性</p> <p>第8回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴</p> <p>第9回：道徳科における教材(1)その特徴</p> <p>第10回：道徳科における教材(2)授業設計への活用</p> <p>第11回：道徳科におけるICTの活用と学習指導案の作成</p>			

第12回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程

第13回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方

第14回：模擬授業の実施(1)その振り返り

第15回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点

定期試験

テキスト

金光靖樹 授業のための新・「教職」道徳教育論

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年告示 文部科学省）

学生に対する評価

定期試験が40%、小テスト20% 提出物20% および授業への参加度（出席、発表、関わり方等）が20%、5回以上授業を欠席した場合は「不可」とする。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 窪田 栄一
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
日本国憲法に関する基本的知識を修得し、自身や社会の諸問題が憲法とどのように関わっているのかについて考えることができる。			
授業の概要			
日本国憲法は、国の最高法規として、個人に基本的人権を保障するとともに、国会・内閣・裁判所等の統治機構の仕組みを定めています。本授業では、国民にどのような基本的人権が保障されるのか、国会・内閣・裁判所にどのような権限が認められるのかといった基本的な論点について概説します。この際には、抽象的な憲法の条文・議論と日常生活との結びつきが認識できるように、過去に裁判になった事例（判例）やいま問題になっている社会問題を取り上げます。			
授業計画			
基本的に以下の授業計画によって講義を進めます。ただし、進行具合によっては順序や内容を変更する可能性があります。			
1 ガイダンス			
2 基本的人権（1） 人権総論			
3 基本的人権（2） 幸福追求権・平等原則			
4 基本的人権（3） 思想・良心の自由、信教の自由			
5 基本的人権（4） 表現の自由			
6 基本的人権（5） 経済的自由			
7 基本的人権（6） 社会権			
8 基本的人権（7） 人身の自由			
9 基本的人権（8） 参政権			
10 統治機構（1） 国会			
11 統治機構（2） 内閣			
12 統治機構（3） 裁判所（1）			
13 統治機構（4） 裁判所（2）・地方自治			
14 憲法改正・天皇制・平和主義			
15 まとめと総括、期末確認テスト			

定期試験（実施しない）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

初回講義で紹介します。

学生に対する評価

50%：授業後のアンケート（確認テスト）への回答

50%：期末確認テスト

授業科目名： スポーツ健康マネジメント演習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 水澤克子、曾我部晋哉、星野映、船江美香
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>体力テスト、健康リテラシー講義、スポーツの実践を通して、体力の維持増進及びコミュニケーション力の向上を図り、生涯にわたって健康的に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向きあうことで心と体の基礎知識を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>【全体像】</p> <p>この授業では、生涯にわたって健康的に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで身体についての基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テスト及び各種測定を実施し、自己の体力や身体の現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに実技では、体を動かす楽しさや、スポーツを通じた仲間との協働やコミュニケーション能力を養う。授業を通して、生涯にわたって、健康的で活力に満ちた生活を送るためのスポーツライフマネジメントを考えることに取り組む。</p>			
授業計画			
<p>スポーツ健康マネジメント演習Iは、体力テスト及び各種測定、健康リテラシー講義、実技を組み合わせで行う。体力テストは文部科学省推奨の新体力テストを行い、自己の体力や身体の現状を客観的に把握する。</p>			
<p>1 回目：トレーニングルーム利用のための基礎知識</p> <p>2 回目：体力テスト（基礎代謝量、体組成、ヘモグロビン量などを測定）</p> <p>3 回目：体力テスト（持久力、筋力、柔軟性、巧緻性などを測定）</p> <p>4 回目：健康リテラシー講義（整形外科的障害と対策、RICE処置（応急処置））</p> <p>5 回目：健康リテラシー講義（頭部・頸部・上肢・腰部・下肢の傷害とコンディショニング、各種測定の評価）</p> <p>6 回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（テニス）</p> <p>7 回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（フットサル）</p>			

8回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（レクリエーションスポーツ）

9回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（卓球）

10回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（野球）

11回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（ソフトボール）

12回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（バドミントン）

13回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（バスケットボール）

14回目：学内体育施設で各種スポーツ等の実技を行う（フィットネス）

15回目：スポーツ健康マネジメント演習IIの説明

定期試験（実施しない）

テキスト

テキスト（PDF）はMy KONANの授業資料の共通資料からダウンロードすること。

参考書・参考資料等

スポーツや健康に関する知識向上に役立つものであれば、積極的に活用してください。また、日本スポーツ協会指導者資格取得を目指す人は、テキストを購入することをお勧めします。

リファレンスブック 日本スポーツ協会 4,840円（2024年度実績、価格変更の可能性有）

学生に対する評価

出席・技能・態度、レポートで評価する。

単位修得には、原則として授業実施回数の3/4以上の出席が必要である。

授業科目名： スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 桂豊、水澤克子、伊東浩司、 曾我部晋哉、吉本忠弘、星野 映、柴田真志、船江美香 担当形態： クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
スポーツを通して、体力の維持増進及びコミュニケーション力の向上を図るとともに、生涯にわたりスポーツを楽しむための諸技能を身につける。			
授業の概要			
この授業では、生涯にわたって健康的な生活を送るための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで身体についての基礎知識を身につける。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力及び体の現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。実技では選択したスポーツ種目を半年間実践することで、それぞれの領域の目的を達成する。			
①個別スポーツ教育領域では、選択した専門種目のスキルを更に向上させるための領域とし、選択したスポーツを卒業後も長く継続できる技術を学ぶことで生涯QOLの向上に寄与することを目的とする。			
②総合スポーツ教育領域では、専門的なスキルがなくても、誰もが気軽に身体活動を実施することができるような種目領域とし、さらに積極的に学生同士のコミュニケーションを図れるような機会を創出することで体と心の健康増進に寄与することを目的とする。			
授業計画			
スポーツ健康マネジメント演習Ⅱは、体力テスト及び各種測定、健康リテラシー講義、選択した領域のスポーツ種目のクラスでの実技を組み合わせで行う。			
1回目：実技① [柔道] オリエンテーション [野球&ソフト] ソフトボールの説明 (バドミントン) バドミントンの特性や身体の使い方の理解 [サッカー&フットサル] フットサルの基本技術1 ボールフィーリング、フットサル・ルールを学んでフットサルゲームに挑戦 (テニス) 基本の打ち方 フォアハンド・バックハンド等			
2回目：実技② [柔道] 柔道衣の扱い方、柔道の礼法、基本動作 [野球&ソフト] 捕球の仕方を学ぶ [バドミントン] フライト練習 (ドライブ・クリア)、肩のコンディショニングを学ぶ [サッカー&フットサル] フットサルの基本技術2 ドリブル、フットサルゲーム (テニ			

ス) 基本の打ち方 サーブ・ボレー等

3回目：実技③ [柔道] 畳の上での体づくり運動 | [野球&ソフト] キャッチボール | [バドミントン] フライト練習 (ドロップ・ヘアピン)、足関節のコンディショニングを学ぶ | [サッカー&フットサル] フットサルの基本技術3 パス&コントロール、フットサルゲーム | (テニス) ラリーを続けてみる

4回目：実技④ [柔道] 投げ技の基本 | [野球&ソフト] ソフトボール個人技術 | [バドミントン] フライト練習 (スマッシュ)、半面シングルス、股関節のコンディショニングを学ぶ | [サッカー&フットサル] フットサルの基本戦術1 フォーメーションを学ぶ、フットサルゲーム | (テニス) ラリーを心掛けてのシングルのゲーム

5回目：実技⑤ [柔道] 固め技 (寝技) の基本 | [野球&ソフト] ソフトボールゲーム | [バドミントン] スキルアップを目指す1 組み合わせ練習、半面・全面シングルス | [サッカー&フットサル] フットサル・ゲーム大会に挑戦 | (テニス) いろいろな打ち方をやってみよう

6回目：体力テスト (基礎代謝量、体組成、ヘモグロビン量などを測定)

7回目：体力テスト (持久力、筋力、柔軟性、巧緻性などを測定)

8回目：健康リテラシー講義 (内科的障害と対策、女性のアスリートの三主徴 (Low Energy Availability : LEAも含む))

9回目：健康リテラシー講義 (スポーツと栄養)

10回目：実技⑥ [柔道] 力の要らない護身術 | [野球&ソフト] 軟式野球の説明、ボールの違いになれる | [バドミントン] ダブルスのルールを覚える、ダブルスゲーム | [サッカー&フットサル] フットサルからサッカーへの切り替え、サッカーの基本技術1 ボールフィーリング、サッカーハーフコートゲームに挑戦 | (テニス) いろいろな打ち方を心掛けてのシングルのゲーム

11回目：実技⑦ [柔道] 投げ技の応用 | [野球&ソフト] 捕球の仕方 | [バドミントン] スキルアップを目指す2 組み合わせ練習 | [サッカー&フットサル] サッカーの基本技術2 ドリブル、サッカーハーフコートゲーム | [テニス] ダブルスをやってみよう。シングルとの違いを知る

12回目：実技⑧ [柔道] 固め技 (寝技) の応用 | [野球&ソフト] 打撃練習 | [バドミントン] スキルアップを目指す3 フォーメーションの理解 | [サッカー&フットサル] サッカーの基本技術3 パス&コントロール、サッカーハーフコートゲーム | [テニス] ダブルスをやってみよう、ダブルスの基本的なフォーメーション

13回目：実技⑨ [柔道] 約束練習、簡単な実践練習 | [野球&ソフト] 軟式野球の個人技術 | [バドミントン] スキルアップを目指す4 サービスとリターン | [サッカー&フットサル] サッカーの基本戦術1 守備、サッカーハーフコートゲーム | [テニス] ダブルスゲーム

14回目：実技⑩ [柔道] 実践練習 | [野球&ソフト] 軟式野球ゲーム | [バドミントン] ゲームスキルアップを目指す 攻撃と守備 | [サッカー&フットサル] サッカーの基本戦術2 攻撃、

サッカーハーフコートゲーム|[テニス] 団体戦

15回目：実技⑩ [柔道] 総復習|[野球&ソフト] 軟式野球ゲームを大会形式で開催|[バドミントン] 大会運営の実際(チーム戦トーナメント)|[サッカー&フットサル] サッカーのまとめ、サッカーハーフコートゲームリーグ戦に挑戦|[テニス] 団体戦と授業の総括
定期試験(実施しない)

テキスト

テキスト(PDF)はMy KONANの授業資料の共通資料からダウンロードすること。

参考書・参考資料等

スポーツや健康に関する知識向上に役立つものであれば、積極的に活用してください。また、日本スポーツ協会指導者資格取得を目指す人は、テキストを購入することをお勧めします。

リファレンスブック 日本スポーツ協会 4,840円(2024年度実績、価格変更の可能性有)

学生に対する評価

出席・技能・態度・レポートで評価する。単位修得には、原則として授業実施回数の3/4以上の出席が必要である。

授業科目名： 中級英語Speaking	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： クックルイズ、ケーパーマシュー、バート ナタービット、フィドラーアンマーク、リ ンマイケル、ホルミツェル、マリンズダニエ ル、プレットバーナード、アリボンガジ ヨナサン、ウァンマリアン、ダウリンティム、ア ンダムカイル
科 目			教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>In this course, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ improve their ability to participate in longer, more complex conversations in a variety of situations ・ express their ideas and opinions about topics that are familiar and related to personal experience and interests, and begin to talk about more complex issues of social and global interest ・ practice using language fluently, accurately, and appropriately (including grammar, vocabulary, idiomatic expressions, pronunciation, and intonation) ・ learn new vocabulary, structures, and useful expressions ・ practice skills for becoming successful, independent language learners (for example, using a dictionary, taking notes, and using the Internet and other materials) <p>Students will:</p> <p>D. acquire communicative skills in foreign languages while developing their intercultural understanding and competence</p> <p>G. develop learning habits that foster curiosity and serve as a foundation for deep thought</p> <p>このコースでは、以下のことを学びます：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な状況において、より長く、より複雑な会話ができるようになること。 - 個人的な経験や興味に関連した身近な話題について、自分の考えや意見を表現し、社会的、世界的に関心のある、より複雑な問題について話せるようになること。 			

- 流暢に、正確に、適切に言葉を使う練習をする（文法、語彙、慣用表現、発音、イントネーションを含む）
- 新しい語彙、構文、役に立つ表現。
- 自立した言語学習者になるためのスキルを練習する（例えば、辞書の使用、ノートの取り方、インターネットやその他の資料の使用）。

学生は

- D. 外国語によるコミュニケーション能力や国際・異文化を理解する能力を身に付ける。
- G. 知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養を身につける。

授業の概要

This course continues to develop the skills that students practiced in College English Speaking. However, in this course more emphasis is placed on improving students' ability to express ideas and opinions about a variety of topics.

このコースでは、College English Speakingで練習したスキルをさらに発展させます。様々なトピックについて学生のアイデアや意見を表現する能力を向上させることに重点を置いています。

授業計画

Class 1: Class rules, course syllabus, self-introduction

Class 2: Self-introduction presentation

Class 3: Memories (Unit 1) Practice natural conversations, learn vocabulary, and write original conversations.

Class 4: Memories (Unit 1) Do listening activities in the unit. Review vocabulary.

Class 5: Memories (Unit 1) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 6: Presentations on Unit 1

Class 7: Life changes (Unit 2) Practice natural conversations, learn vocabulary, and write original conversations.

Class 8: Life changes (Unit 2) Do listening activities in the unit. Review vocabulary.

Class 9: Life changes (Unit 2) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 10: Presentations on Unit 2

Class 11: Viewpoints (Unit 3) Practice natural conversations, learn vocabulary, and write original conversations.

Class 12: Viewpoints (Unit 3) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 13: Viewpoints (Unit 3) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 14: Group presentations on Unit 3 Groups 1-3

Class 15: Group presentations on Unit 3 Groups 4-6

Class 16: Problems (Unit 4) Practice natural conversations, learn vocabulary, and write original conversations.

Class 17: Problems (Unit 4) Do listening activities in the unit. Review vocabulary.

Class 18: Problems (Unit 4) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 19: Group presentations on Unit 4 Groups 1-3

Class 20: Group presentations on Unit 4 Groups 4-6

Class 21: Feelings and opinions (Unit 9) Practice natural conversations, learn vocabulary, and write original conversations.

Class 22: Feelings and opinions (Unit 9) Do listening activities in the unit. Review vocabulary.

Class 23: Feelings and opinions (Unit 9) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 24: Group debate on Unit 9 Students choose stakeholders on an agreed topic that they found online that is related to Unit 9 (refer to <https://testing-www.procon.org/>) and prepare their debate speeches.

Class 25: Group debate on Unit 9 Students do their debates in small groups. After their debate, they decide on which stakeholder had the best arguments and why. Students submit an online reflection on their debate performance.

Class 26: What if ... ? (Unit 10) Go over vocabulary. Do listening activities in the unit. Review vocabulary.

Class 27: What if ... ? (Unit 10) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 28: My world (Unit 7) Go over vocabulary. Do listening activities in the unit. Review vocabulary.

Class 29: My world (Unit 7) Do speaking and reading activities in the unit. Do grammar activities in the back of the book for homework.

Class 30: Looking back, course evaluation

定期試験 (実施しない)

テキスト

Breakthrough Plus 3 (2/E), #1176

参考書・参考資料等

Please bring a device with Wi-Fi connection to class. Bring a folder to keep any handouts.

学生に対する評価

Attendance and participation: 10%

Individual presentations: 30%

Group presentations and projects: 40%

Teams (online) written postings and textbook homework: 20%

(Absence and lateness negatively affect the participation grade. Students who are absent for more than one-third of the classes will fail this course.)

出席および参加 : 10%

個人プレゼンテーション 30%

グループプレゼンテーションおよびプロジェクト 40%

Teams (オンライン) 提出物および教科書の宿題 : 20

(欠席、遅刻は出席評価に悪影響を与える。授業の3分の1以上欠席した場合は不合格となる)

授業科目名： 中級英語Presentation	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： エバリーリディア、オーエンリチャード、クック、クルーズ、バスカヴィルブライアン、マックトマス、ウアンマリオン、マーケルシュワート、ダウリンティム、レイチュートレバー、アンダムカイル、野村和宏
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>In this course, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ learn basic presentation skills (e.g. effective organizational patterns and body language) ・ learn how to prepare various types of speeches ・ regularly present short speeches in front of their classmates about familiar topics such as their own interests and experiences ・ give speeches that are planned in advance, but also present some that are semi-planned and unplanned ・ gain experience in making speeches about issues of general social and global interest ・ learn how to listen actively and ask questions as audience members ・ learn new vocabulary and useful expressions ・ practice skills for becoming successful, independent language learners (for example, using a dictionary, taking notes, and using the Internet and other materials) <p>Students will:</p> <p>D. acquire communicative skills in foreign languages while developing their intercultural understanding and competence</p> <p>G. develop learning habits that foster curiosity and serve as a foundation for deep thought</p> <p>このコースでは以下のことを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 基本的なプレゼンテーションスキル (効果的な構成パターンやボディランゲージなど) 			

- 様々なタイプのスピーチ方法。
- 自分の興味や経験など身近なトピックについて、定期的に短いスピーチを行う。
- 事前に計画したスピーチだけでなく、計画にないスピーチや事前準備のないスピーチを行う。
- 一般的な社会問題や世界的な関心事についてスピーチをする経験を積む。
- 聴衆として積極的に話を聞き、質問する方法を学ぶ。
- 新しい語彙や便利な表現を学ぶ
- 自立した語学学習者になるためのスキルを身につける（辞書の使い方、ノートの取り方、インターネットやその他の資料の使い方など）。

学生は

- D. 外国語によるコミュニケーション能力や国際・異文化を理解する能力を身につける。
- G. 知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養を身につける。

授業の概要

This course aims to develop students' confidence in speaking in front of an audience and to improve their ability to organize and present a variety of speeches.

このコースは、聴衆の前で話す自信を養い、様々なスピーチを構成し発表する能力を向上させることを目的とする。

授業計画

Class 1: Syllabus and textbook overview, class rules, getting familiar with classmates and teacher.

Class 2: Watching videos of famous presenters from around the world. Analyzing the presentation.

Class 3: Self-introduction (Unit 1). Go over vocabulary and listening activities.

Class 4: Self-introduction (Unit 1). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 5: Self-introduction presentation, reflection, feedback.

Class 6: An important person or thing (Unit 2). Go over vocabulary and listening activities.

Class 7: An important person or thing (Unit 2). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 8: An important person or thing presentation, reflection, feedback.

Class 9: Places (Unit 3). Go over vocabulary and listening activities.

Class 10: Places (Unit 3). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 11: Place presentation, reflection, feedback.

Class 12: Opinions (Unit 4). Go over vocabulary and listening activities.

Class 13: Opinions (Unit 4). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 14: Watching TED Talks (chosen by NHK) speeches. Analyzing the presentations.

Class 15: Watching TED Talks (chosen by NHK) speeches. Reviewing vocabulary from presentations.

Class 16: Opinion presentation, reflection, feedback.

Class 17: Biography (Unit 5). Go over vocabulary and listening activities.

Class 18: Biography (Unit 5). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 19: Biography presentation, reflection, feedback.

Class 20: Stories (Unit 6). Go over vocabulary and listening activities.

Class 21: Stories (Unit 6). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 22: Story presentation, reflection, feedback.

Class 23: Solving problems (Unit 7). Go over vocabulary and listening activities.

Class 24: Solving problems (Unit 7). Go over grammar, speaking, and reading activities.

Class 25: Solving problem presentation, reflection, feedback.

Class 26: Final presentation (Unit 8). Groups 1-3

Class 27: Final presentation (Unit 8). Groups 4-6

Class 28: Final presentation (Unit 8). Groups 7-9

Class 29: Final presentation (Unit 8). Watching presentations that were given. Writing feedback. Going over mistakes made during presentation. Doing a quiz on the information that was covered during the presentations.

Class 30: Course evaluation, reflection.

定期試験 (実施しない)

テキスト

Ready to Present (1/E), #1180

参考書・参考資料等

Please learn how to use PowerPoint, Excel, and Word. Please bring a device with Wi-Fi connection to class.

学生に対する評価

Attendance and participation: 20%

Individual presentations: 40%

Group presentations: 40%

(Absence and lateness negatively affect the participation grade. Students who are absent for more than one-third of the classes will fail this course.)

出席と参加 : 20%

個人プレゼンテーション 40%

グループプレゼンテーション 40%

(欠席、遅刻は出席評価に悪影響を与える。授業の3分の1以上欠席した場合は不合格となる)

授業科目名： AI・データサイエンス 入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠田有史、吉川歩、関和広
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業を通じて、次の4つの活動からなる基礎的なリテラシー能力を習得することを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AI・データサイエンスの歴史および現状に関する基本的な理解 ・ 最先端のAI・データサイエンス技術の実例を通じた今後の展望の理解 ・ 表計算ソフトを活用した基礎的な統計処理によるデータの可視化方法の習得 ・ 情報セキュリティに関する基礎的な知識の習得と、データの収集と適正な管理のための知識の習得 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、甲南大学のすべての学部の学生に向けて提供される、数理・AI・データサイエンスのリテラシーを学ぶ科目です。今日、社会では、様々な情報を集め、整理し、分析する能力や、そこから新しい価値を生み出す能力が求められつつあります。</p> <p>この授業では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解します。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、データから知見を見いだすための方法の基礎について、体験を通じて学びます。さらに、様々なデータを安全に扱うためのセキュリティについて学び、情報を適正に管理するための原則についても学びます。最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、生成AIの動向も含め最新の研究トピックにも触れながら学びます。</p> <p>この授業は、受講者のみなさんが授業を通じて自分のペースで内容を十分に習得できるよう、各自がオンライン動画をはじめとした教材に自由にアクセスして進行するオンデマンド形式で実施します。毎回出題される課題を期限内にこなし、成果物を提出しながら、学びを深めていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第01回 社会で起きている変化と活用されているデータ（担当：関）</p> <p>第02回 データ・AIの活用領域とそのため技術（担当：関）</p> <p>第03回 データ・AI利活用の現場と最新動向（担当：関）</p> <p>第04回 表計算ソフトを活用したデータの整理と可視化（担当：篠田）</p>			

第05回 データの説明のための統計処理の基本（担当：篠田）
 第06回 データの説明のための統計処理を試す（担当：篠田）
 第07回 表計算ソフトを活用したデータの説明I データからの知見の読み出し（担当：篠田）
 第08回 表計算ソフトを活用したデータの説明II 予測モデルの構築と利用（担当：篠田）
 第09回 データ・AIを扱う上での留意事項(1) ELSI、個人情報保護、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト等（担当：吉川）
 第10回 データ・AIを扱う上での留意事項(2) データ倫理、AI社会原則、データバイアス、生成AIの留意事項等（担当：吉川）
 第11回 データを守る上での留意事項（担当：吉川）
 第12回 Pythonによるプログラミング1 変数、リスト、ディクショナリ、条件分岐など（担当：関）
 第13回 Pythonによるプログラミング2 繰り返し（for文）、Numpyの使い方等（担当：関）
 第14回 データ活用実践1（担当：関）教師あり学習、scikit-learn等
 第15回 データ活用実践2（担当：関）教師あり学習、分類モデルの評価等
 定期試験（実施しない）

テキスト

教養としてのデータサイエンス 改訂第2版

著者 北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著 データサイエンス入門シリーズ

出版社 講談社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業回毎に課される合計15回の課題（100%）

（備考：すべてMy KONAN上のテスト機能を使い自動採点とします）

授業科目名： IT基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠田有史、宮崎光二、玉本拓 郎、植村仁、池田瑞穂、中西 久雄、辻稔郎、木庭淳
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>演習を通して、次の3つの能力の習得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の教育情報環境を活かした情報処理能力 2. 情報倫理に関する理解のもとでの情報を活用する能力 3. ICTを活用したコミュニケーション能力 			
<p>授業の概要</p> <p>本クラスは、グループワーク等を通じて本学の新入生全員が身に着けるべき基本的な情報リテラシー能力の習得を目指すものである。具体的な講義・実習内容として、インターネット、電子メール、本学のネットワーク環境、図書館情報環境、オフィスソフトウェア、情報倫理などについて学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>My KONANの学習コースで指示された実践的内容のグループワーク等による課題への取り組みと、担当教員との質疑応答をはじめとしたやり取りを通じ、情報リテラシー能力を習得する。</p> <p>第1回 ノートパソコンのセットアップ (Wifi設定, My KONAN, Microsoft 365) , インターネットのしくみ</p> <p>第2回 ファイル操作 (ローカルおよびMicrosoft 365上)</p> <p>第3回 電子メールの送受信, タッチタイピング</p> <p>第4回 グループワーク・オリエンテーション (図書館情報検索演習)</p> <p>第5回 ネットワークと社会</p> <p>第6回 表計算ソフトウェアによる表作成</p> <p>第7回 表計算ソフトウェアによる関数演算, セル操作, 罫線, 絶対参照</p> <p>第8回 表計算ソフトウェアによるグラフ作成</p> <p>第9回 プレゼンテーションソフトウェアの基礎</p> <p>第10回 プレゼンテーションの考え方 (発表会の準備)</p> <p>第11回 ワードプロソフトウェアの基礎 (文章入力, フォントや段落の設定, 参考文献)</p> <p>第12回 ワードプロソフトウェアの基礎 (グラフ, 表, SmartArtの挿入, 図表へのキャプション)</p>			

の追加)

第13回 ワープロソフトウェアの応用

第14回 プレゼンテーションの準備

第15回 プレゼンテーション・ワークショップ（ワールドカフェ方式による発表会）

授業実習は、以下に示す教科書の所持を前提に実施する。教科書を必ず入手の上、My KONANの学習コースにアクセスして履修すること。

定期試験（実施しない）

テキスト

KUKINDSガイドブック 2025年度版、学術図書出版社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

- ・授業への積極的な関与による平常点（50%）
- ・授業中に実施する課題およびレポート（50%）

授業への参加が全授業回数の3分の2に満たない学生は「不可」とする。

授業科目名： IT応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠田有史、玉本拓郎、辻稔郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、グループワーク等も通して目標に取り組む中で、以下の3つの能力の達成を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. HTML基礎知識の習得、HTML作成ソフトウェアを活用したWebページ作成、Webページの公開作業 2. 写真データの取り扱い、静止画の編集（フォトタッチ） 3. チームでのディスカッションで立案した計画に基づき、協働作業での成果物の作成 また、学びを通じて、学生自身の自主的な学習努力によるWebに関する資格取得につながるよう、必要な前提知識の習得を目指す。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、情報発信に重きをおいたIT応用能力の習得を目指す。情報発信のためのWebページ作成を中心に、デジタルカメラによる素材の収集と静止画編集に取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>授業は次の順序で実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インターネットとWebページのしくみ、Webに関連する資格の紹介、HTMLの基本構造とメモ帳によるHTMLによる作成演習 2 FTPによるファイルアップロードとホームページ作成ソフトウェアの基礎 3 チーム編成とホームページのグループテーマ検討 4 CSSとはなにか 5 CSSとホームページ作成ソフトを組み合わせたページのアレンジ 6 相互リンクによるチームホームページの基礎的な構築 7 画像ファイルの概要とフォトタッチの基礎（トーンカーブ調整、解像度変更など） 8 フォトタッチ実習1（画像修正など） 9 フォトタッチ実習2（フィルタ操作など） 10 デジタルカメラを用いたホームページ用写真素材収集とコンピュータへの取り込み 11 チームテーマに沿った写真素材のタッチ 12 チームホームページ作成計画の立案および作成実習1 13 チームホームページ作成実習2 			

14 チームホームページ作成実習3

15 ホームページ品評会

定期試験（実施しない）

テキスト

教科書は使用しない。e-Learning教材、配布資料、および下記の必携書を使用する。

必携書：KUKINDSガイドブック 2025年度版、学術図書出版社

参考書・参考資料等

CSSグリッドレイアウト デザインブック、マイナビ出版

学生に対する評価

- ・授業への積極的な関与による平常点（40%）
- ・課題評価点(60%)・・・各人が作成する個人製作課題、グループで作成するWebページ、Webページ発表会の3点からの評価

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安喰 勇平
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ● 主題 本授業は、教育の理念および思想を歴史的に概観しながら、教育の意義について多角的に考察する。 ● 到達目標 教育に関する諸テーマについて批判的に検討し、他者に自身の見解を説明できる力量を身につけることを目標とする。 			
授業の概要			
<p>本授業は、教育の理念および思想を歴史的に概観しながら、教育の意義について多角的に考察する。授業全体を通して、近代教育成立以後の教育思想を、歴史の流れに沿って扱っていく。授業の序盤では、私達の身近にある学校教育がどのような思想に基づいているかを西洋の教育思想を手がかりにしながら探究する。授業の中盤では、学校教育に対する批判的な見解を紹介することで、学校教育を相対化する視点を養う。序盤・中盤ともに、教育の歴史を踏まえながら、現在の日本の教育について考える機会を設ける。授業の終盤では、ケースメソッドという討論型の授業を行う。ケースメソッドでは、現代の教育における重要な論点に関する事例について考え、議論することで、教育をめぐる議論の複雑性を体感し、また、自身の見解を他者に説明する力量を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業の概要、計画、評価			
第2回：教育の基本的概念（1）：教育とは何か			
第3回：教育の基本的概念（2）：なぜ人間に教育が必要か、「野生の少年」			
第4回：教育の理念の歴史（1）：学校はどうあるべきか、コメニウス			
第5回：教育の理念の歴史（2）：子供はどのような存在か、ルソー			
第6回：教育の思想と共に考える（1）：教育の技術、ヘルバルト			
第7回：教育の思想と共に考える（2）：教育と興味・関心、フレーベル、デューイ			
第8回：学校教育の問い直し（1）：日本の教育の近代化から考える			
第9回：学校教育の問い直し（2）：学校におけるモノの変化			
第10回：学校教育の問い直し（3）：学校に通わないという選択肢、イリイチ、不登校			

第11回：学校教育の問い直し（4）：家庭と教育、教育格差と文化資本、ブルデュー
 第12回：学校教育の問い直し（5）：教育における反省の意義、反省的実践家
 第13回：現代教育の論点（1）：ケースメソッド実践①、教育、成果、努力
 第14回：現代教育の論点（2）：ケースメソッド実践②、教育、能力、科学
 第15回：良い教育とは何か：コンセプトマップで考える
 定期試験

テキスト

・授業内で使う資料は配布します。

参考書・参考資料等

・木村元／小玉重夫／船橋一男『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣、2019年。ISBN-13：9784641177260

学生に対する評価

（1）最終レポート（40%）

授業全体で扱った教育の理念と思想の歴史についての理解度と、その内容を踏まえて自身の見解を多角的な視点に立った上で論じることができるかどうかを評価する

（2）コメントシート（30%）

毎回授業後に記入するコメントシートの記述を、授業内容の理解度、授業内容に関する思考の深さ、オリジナリティなどの観点から総合的に評価する

（3）参加点（30%）

毎回の授業内の討論への貢献度、ピアレビュー、自己評価、授業内提出物などから評価する

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八木 眞由美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教師の仕事の全体像をつかみ、教職の意義、教師の役割、職務内容などを理解し、教師としての資質・能力の基礎・基本を身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p> <p>①主体的で自律的に思考し行動する力を身に付ける。</p> <p>②教師の仕事の全体像をつかみ、教職の意義、教師の役割、職務内容などを理解することができる。</p> <p>③教師としての資質・能力の基礎・基本を身に付けることができる。</p> <p>④専門職としての教師に求められる資質・能力とは何かを考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職を志望する学生の入門となる科目。</p> <p>教職課程を履修しようとする学生の皆さんは、まずこの科目を受講し、教職への基礎・基本となる学習内容を学んでほしい。日本の学校教育は大きな変化と改革の時代を迎え、社会・保護者・地域からの批判だけではなく大きな期待がある。教職を志望する学生の皆さんが、「教師という存在」「教職の意義」「教育公務員としての教師」「教師の専門性」「時代が求める教師像」等について考究し、理解を深め、自らの教育観・教職観を確立するための教職の基礎的・基本的な知識と教養を身に付けることをねらいとする。</p> <p>教師になることは簡単なことではないが、自分が教師に向いているかどうかを確かめたうえで、教師になることを志し・決意したならば、希望を持って目標に向かって研鑽を積んでほしいと考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 教職とは</p> <p>第2回 教職課程で学ぶこと</p> <p>第3回 子どもの姿</p> <p>第4回 教員の仕事（1）（学級担任の仕事・教員の多忙感）</p> <p>第5回 教員の仕事（2）（校務分掌・学習指導・生徒指導）</p> <p>第6回 教員の仕事（3）（学級経営・学校安全・連携）</p> <p>第7回 教育観の変遷</p>			

第8回 教員に求められる資質・能力

第9回 公教育、教育行政と教育法規

第10回 学校教育に主要な教育法規

第11回 教育課程

第12回 教員に関する法規

第13回 教員の研修

第14回 チーム学校

第15回 教員の採用について

定期試験

テキスト

甲南大学生のための「教職入門」改訂版 定金浩一・八木眞由美・井上 快 著 (ブイ
ツーツソリューション)

甲南大学「2026年度 教職ガイドブック」

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜配布する。

学生に対する評価

授業での議論への積極的な参加 (60%) と定期テスト (40%) に基づき成績を評価する。

100点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 定金 浩一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育全般についての理解を深めるとともに、「教職とは何か」について、教職の意義や役割、資質能力、職務内容等を概観する。また、期待される教職像を探求し、教職の適性を考え、教職への基礎づくりを行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>変化する社会情勢と教育動向を概観し、「教育とは」「学校とは」「教育者とは」何かを考える。そして、教育関係法規や学習指導要領などをもとに公教育の重要性を理解し、教職に求められる資質・能力について考え、将来の教職像を明らかにしていく。また、最新の教育課題を事例研究で学び、現場の厳しさにも目を向けて、幅広い視野と強い責任感が求められることを意識させたい。その際、現場経験（校長、教頭、教諭）や神出学園、教育研修所等の経験も活かして、今日的課題への対応についてともに考えたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p><実践>本講義では教職について考察することができるように実践的な授業構成をしている。</p> <p>第1回：教職とは</p> <p>第2回：教職課程で学ぶこと</p> <p>第3回：子どもの姿</p> <p>第4回：教員の仕事（1）（学級担任の仕事・教員の多忙感）</p> <p>第5回：教員の仕事（2）（校務分掌・学習指導・生徒指導）</p> <p>第6回：教員の仕事（3）（学級経営・学校安全・連携）</p> <p>第7回：教育観の変遷</p> <p>第8回：教員に求められる資質・能力</p> <p>第9回：公教育、教育行政と教育法規</p> <p>第10回：学校教育に主要な教育法規</p> <p>第11回：教育課程</p> <p>第12回：教員に関する法規</p> <p>第13回：教員の研修</p> <p>第14回：チーム学校</p> <p>第15回：教員の採用について</p>			

定期試験**テキスト**

甲南大学生のための「教職入門」改訂版 定金浩一・八木眞由美・井上 快 著（ブイツ
ーソリューション）

甲南大学「2026年度 教職ガイドブック」

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東洋館出版社

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」東洋館出版社

学生に対する評価

評価は、定期試験（40％）と授業での議論への積極的な参加（60％）に基づき実施する。100
点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 教育社会行政論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡邑 衛
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 教育を社会化（socialization）の一つとしてとらえ、学校や子どもをめぐる変化を社会的に理解している。</p> <p>2. 教育行政の概念、目的、機能、作用、教育法規との関係等に関する理解を深める。</p> <p>3. 学校と地域の連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>本科目は、教育の様々な事象を社会的に捉え、社会的背景を考慮しながら、自らの意見を述べられるようにする。また、教育制度をめぐる諸課題について考察することを通して、公教育制度の意義・原理・構造及び教育法規の理解を深める。そして、学校と地域との連携や安全と安心の学校づくりなど、現代的課題にも焦点をあてる。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教育社会行政論で何を学ぶのかー			
第2回：家族、地域社会と子ども			
第3回：学校と子ども			
第4回：教育課題①～いじめ・不登校～			
第5回：教育課題②～少年非行～			
第6回：教育課題③～子どもの貧困～			
第7回：ジェンダーと教育			
第8回：学校と教師			
第9回：公教育制度の歴史と今日的課題			
第10回：教育に関する法と制度			
第11回：教師をめぐる法と制度			
第12回：教育行政の目的と性格			
第13回：教育行政の組織と機能			
第14回：学校と地域との連携			
第15回：学校安全と学校防災			
定期試験			
テキスト			

原清治/山内乾史編著「教育社会学」ミネルヴァ書房

古川治・今西幸蔵・五百住満編著「教師のための 教育法規・教育行政入門」ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

評価は、定期試験(40%)と授業での議論への積極的な参加(60%)に基づき実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 人権教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田 稔
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養を身につける。			
授業の概要			
<p>人権教育の本流である同和教育の本質は、かけがえのない「いのち」を見つめることである。同和教育実践は、「いのち」を意識させ、一人ひとりを大切にする教育を根底としてきた。目の前の子どもたちが直面している課題の解決を中心に据えた取り組みによって、多くの成果を生み出してきた。本講義では、同和教育の歴史や同和教育から私たちが学ぶべきことを考察する。さらに、これからの人権教育の課題と教育現場での実践について詳しく論及する。私たち自身にとって部落問題・人権問題とは何なのかを自らの問題として考えたい。また、差別の不合理を認識し、人権の自覚と人間尊重の精神を高め、問題解決に資する人権教育実践の内容について探究する。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス・アンケート・キーワードの解説・主な人権課題（講義）			
第2回 子どもとつながる① 自己開示・等身大の自分（講義）			
第3回 子どもとつながる② 人権教育を進める上で大切にしたい視点（講義）			
第4回 子どもとつながる③ 学級開き・学級目標（講義・ディスカッション）			
第5回 人権学習を進めるにあたって<図解>（講義）			
第6回 人権へのアプローチ①<教材を使って学ぶ：人権キャッチコピーが、教育に果たす役割>（講義・ディスカッション）			
第7回 人権へのアプローチ②<アクティビティ：権利の優先性と平和・自由について考える>（講義・グループワーク）			
第8回 子どもを見つめる（子ども理解）①：子どもの気持ち・願いを読みとる（講義）			
第9回 子どもを見つめる（子ども理解）②：子どもの生活背景から見つめる（講義）			
第10回 子どもを見つめる（子ども理解）③：課題を抱える子供の理解（講義）			
第11回 感情の受容とアサーション（講義）			
第12回 対立から対等の仲間関係①（講義・ディスカッション）			
第13回 対立から対等の仲間関係②・集団づくり、部落差別解消推進法から学ぶ（講義・ディスカッ			

ション)

第14回 人権の視点に立った授業創りについて考える①：授業について考える（講義）

第15回 人権の視点に立った授業創りについて考える②：学習授業案の作成（講義）第1回：
定期試験

テキスト

- ・教科書は特になし
- ・必要に応じて印刷物を準備

参考書・参考資料等

- ・授業内に紹介する

学生に対する評価

- ・定期試験（100%）
- ・10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
- ・定期試験を受験しなかった場合は、成績を評価しない。

授業科目名： 教育心理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田 信樹
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関わる心理学の基礎的知識を修得、各発達段階の心理的特性を踏まえた教育を行うための基礎を形成する。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各発達段階における運動・言語・認知・社会性の発達に関する知識と技術を獲得し、主体的学習活動を支える記憶、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。</p> <p>(到達目標) (1) 乳幼児期から青年期の各発達段階における運動・言語・認知・社会性の発達に関する知識を修得する。</p> <p>(2) 主体的学習活動を支える記憶、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の基礎的知識を修得し、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を形成する。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各発達段階における運動・言語・認知・社会性の発達に関する知識と技術を獲得し、主体的学習活動を支える記憶、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 心理学とはどのような学問かー教育心理学（発達と学習の心理学）を学ぶ意義ー</p> <p>第2回 学習の仕組みを知る①；条件づけの仕組みを中心に</p> <p>第3回 学習の仕組みを知る②：モデリングの仕組みを中心に</p> <p>第4回 「やる気」の心理学①：学習に対する動機づけのしくみ</p> <p>第5回 「やる気」の心理学②：学習に対する動機づけの形成</p> <p>第6回 学習を支える記憶のメカニズム①：記憶のしくみを知る</p> <p>第7回 学習を支える記憶のメカニズム②：記憶に残る教授法を考える</p> <p>第8回 教授法と教育評価：いかに教え、いかに評価するか</p> <p>第9回 学級集団の理解：集団に関する心理学の知見から学級集団づくりについて考える</p> <p>第10回 発達の基礎ー人間が発達するとはどういうことか：発達観の明確化ー</p> <p>第11回 能力と性格の発達ー人間の発達を支える2つの柱：遺伝と環境ー</p> <p>第12回 生涯発達のあゆみ①：新生児期から乳児期にかけての身体・社会・心理的発達</p> <p>第13回 生涯発達のあゆみ②：幼児期から児童期にかけての身体・社会・心理的発達</p>			

第14回 生涯発達のおゆみ③：青年期の身体・社会・心理的発達－

第15回 発達のおまづき：おきづらさを抱える子どもの心理と支援について考える

定期試験

テキスト

『育ちと学びの心理学－こどもの成長に寄り添うために－』 松田信樹（著） あいり出版
2018

参考書・参考資料等

『やさしい教育心理学 [第5版]』 鎌原 雅彦,・竹綱 誠一郎（著） 有斐閣アルマ 2019

学生に対する評価

定期試験（50点）、小テスト（50点）

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 定金 浩一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・特別の支援を必要とする児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ・障害はないが特別の教育的ニーズがある児童及び生徒の学習上または生活上の困難とその対応を理解する。 			
授業の概要			
<p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする児童及び生徒が授業における学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、児童及び生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
授業計画			
第1回 特別支援教育とは何か			
第2回 特別支援教育の理念と「自立活動」の教育課程上の位置付け			
第3回 知的障害の支援・指導			
第4回 聴覚障害・肢体不自由・視覚障害の支援・指導			
第5回 発達障害の概念と「通級による指導」について			
第6回 学習障害の理解			
第7回 ADHDの理解			
第8回 自閉症の理解			
第9回 自閉スペクトラム症の理解			
第10回 気になる子どもの支援・指導			
第11回 ブラインドウォークと発達障害者支援法及び通達について			
第12回 通常の学級担任の気づきとアセスメント			
第13回 インクルーシブ教育・合理的配慮・授業のユニバーサルデザイン			
第14回 障害はないが特別な教育的ニーズがある児童・生徒の支援・指導			
第15回 個別の教育支援計画・指導計画の作成と特別支援コーディネーターについて			
定期試験			

テキスト

アクティベート教育学07 特別支援教育 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

評価は、定期試験（40％）と授業での議論への積極的な参加（60％）に基づき実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡邑 衛
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2. 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3. 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 4. 教育課程編成の基本原理を理解している。 5. 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 6. 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 7. 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 8. カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。 			
授業の概要			
<p>本科目では、学習指導要領の改訂の変遷を概観し、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教育課程論を学ぶ意義ー			
第2回：近代日本の教育課程①明治期の教育課程			
第3回：近代日本の教育課程②大正期以降の教育課程			
第4回：現代日本の教育課程①経験主義～教育の現代化			
第5回：現代日本の教育課程②人間性重視～カリキュラム・マネジメント			
第6回：教育課程開発①研究開発学校制度			
第7回：教育課程開発②地方分権と学力問題から			
第8回：教育課程の思想と構造			
第9回：教育課程編成			
第10回：教育課程評価			
第11回：教育課程に関する諸理論			
第12回：教育課程の今日的課題①命の教育、市民性教育			
第13回：教育課程の今日的課題②環境教育、メディア			

第14回：諸外国の教育課程改革

第15回：教育課程のまとめと復習

定期試験

テキスト

田中耕治他著『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

評価は、定期試験(40%)と授業での議論への積極的な参加(60%)に基づき実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮垣 覚
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 <p>かつてないほどに「教育課程」が注目されている背景をさぐり、「教育課程」とは何かを具体的に整理する。教育課程の基準となる学習指導要領について、戦後の教育改革から現在に至る改訂の変遷を大まかにつかみ、未来の学校教育のあり方を考える。また、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、実際の学校現場における教育課程編成のプロセスを学び、教育課程の創造的編成の基礎を習得する。</p>			
授業の概要 <p>教育課程には、教育目標や年間学習指導計画、週時程表、生活時間帯など数多くの内容が含まれている。教育課程は、各学校が独自に編成すべきものであるが、公教育を担っている性格上、守るべき水準がある。しかし、それぞれの学校には、歴史的な経緯や地域性の違いだけでなく、学校規模や施設環境などの違いもある。何よりも、克服すべき課題が異なる。この課題を克服しようと努力していく過程で、各学校の特色ある教育活動は生まれてくる。</p> <p>学習指導要領の改訂の変遷を概観するとともに、今日的な教育課題としての新型コロナ対応やGIGAスクール構想の実現に向けた努力も学んでいく。そのうえで、各学校が行う教育課題の克服に向けた大きな計画が「教育課程」にあることを理解する。教育課程の実施状況に加えて、学校評価や学校運営協議会（コミュニティ・スクール構想）も幅広く学び、教育課程全般の基礎を理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回：教育課程論 ～ ガイダンス、目標等 ～</p> <p>第2回：教育課程 ～ 学習指導要領総則より、内容、目的、方法 ～</p> <p>第3回：戦前、戦後の教育課程の歩み ～ 戦前戦後の比較、学習指導要領の変遷 ～</p> <p>第4回：現行学習指導要領のポイント ～ 主体的対話的で深い学び、令和の日本型学校教育～</p> <p>第5回：GIGAスクール構想 ～ デジタル化の目的、期待されること ～</p> <p>第6回：特色ある教育活動 ～ 各学校の特色ある教育活動、学校行事他 ～</p> <p>第7回：健全育成等への取組 ～ 安全教育、学校規模や生徒の課題等と生徒指導 ～</p> <p>第8回：カリキュラム開発実践例 ～ 各校の実践に学ぶ ～</p> <p>第9回：カリキュラムと教育環境 ～ 学校・学級、地域連携 ～</p> <p>第10回：授業研究① ～ 授業形態、授業デザイン、協働する授業 ～</p> <p>第11回：授業研究② ～ 教科等横断的な学びの教育課程編成と学習の進め方 ～</p> <p>第12回：教育評価 ～ 実施状況調査、「新たな学校評価」のあり方と</p>			

教育課程編成の関係 ～

第13回：カリキュラム・マネジメント ～ 創造的実践、教科横断的な指導、課題 ～

第14回：社会に開かれた教育課程 ～ 考え方、コミュニティスクール ～

第15回：授業のまとめ ～ まとめのレポート作成、振り返り ～

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 文部科学省

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社

学生に対する評価

- ・ 1～14回 毎回授業内で作成する授業レポート (50%)
- ・ 1～15回 授業中のグループワーク、スピーチ等 (20%)
- ・ まとめレポート (30%)

授業科目名： 特別活動・総合的な学習の時間指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡邑 衛 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法 		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2. 特別活動の教育的意義について理解している。 3. 特別活動の指導や実践、評価の方法を理解している。 4. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標及び主な内容を理解している。 5. 総合的な学習の時間の教育的意義について理解している。 6. 総合的な学習の時間の指導や実践、評価の方法を理解している。 			
授業の概要			
<p>特別活動の位置づけや歴史を理解し、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点から特別活動の意義を理解したうえで、学級活動（ホームルーム活動）、児童会（生徒会）、学校行事等を指導、実践、評価する基礎を養う。また、総合的な学習の時間の成立について学び、変化の激しい社会において、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するという視点から総合的な学習の時間の意義を理解したうえで、実践事例をもとに基本的な考え方や指導法について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：特別活動の理論			
第2回：特別活動が育む資質・能力			
第3回：特別活動の計画・実践・評価			
第4回：学級活動・ホームルーム活動			
第5回：児童会活動・生徒会活動・学校行事			
第6回：特別活動の実践①学級活動・ホームルーム活動			
第7回：特別活動の実践②児童会活動・生徒会活動・学校行事			
第8回：総合的な学習の時間の趣旨と位置づけ			
第9回：総合的な学習の時間の目標と内容			
第10回：総合的な学習の時間の単元計画・実践・評価			
第11回：総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント			
第12回：総合的な学習の時間の事例検討①国際理解教育、多文化共生			
第13回：総合的な学習の時間の事例検討②人権教育、防災教育			

第14回：総合的な学習の時間の実践①国際理解教育、多文化共生

第15回：総合的な学習の時間の実践②人権教育、防災教育

定期試験

テキスト

『中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示』文部科学省

『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示』文部科学省

中村豊、原清治編著『特別活動』ミネルヴァ書房

釜田聡、松井千鶴子、梅野正信編著『総合的な学習の時間の新展開』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示』文部科学省

『高等学校学習指導要領 総合的な探究の時間編 平成29年告示』文部科学省

学生に対する評価

評価は、定期試験(40%)と授業での議論への積極的な参加(60%)に基づき実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 特別活動・総合的な学習の時間指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤本 勇二
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間および特別活動の特徴をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習や特別活動の指導のあり方について理解を深める。</p> <p>（到達目標）学習指導要領における総合的な学習の時間・特別活動の目標および内容を理解している。教育課程上の位置付けや他教科等との関連を理解している。活動の特質を理解し、適した指導計画や指導法のあり方について理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半に、総合的な学習（探究）の時間に関する講義・演習を行い、後半に特別活動の講義・演習を行うことを通して、ねらいや内容、具体的な活動事例、指導法等について理解を深め、指導力向上をめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本講義の特徴と授業計画の提示（講・演）：「総合的な学習（探究）の時間」（前半）・「特別活動」（後半）の流れを示すスキルアップワーク「学習(探究)計画」（総合）「自己紹介・他者紹介」（特活）</p> <p>第2回：「総合的な学習（探究）の時間」の成立とその変遷（講・演）：「総合的な学習（探究）の時間」の意義・目標・内容等を整理するグループワーク(ジグソー法)「各学習指導要領上に見られる特徴・内容・配慮事項」</p> <p>第3回：「総合的な学習（探究）の時間」の探究（講・演）：テーマ・内容設定の考え方(テーマの設定と設定方法の検討等)グループワーク(テーマの設定)「テーマ例：環境・福祉・キャリア・情報・経済・文化遺産等」</p> <p>第4回：「総合的な学習（探究）の時間」の探究（講・演）：指導計画の立案に関する考え方(各教科等との関連、年間指導計画等)スキルアップワーク(指導計画)「年間指導計画案作成」</p> <p>第5回：「総合的な学習（探究）の時間」の探究（講・演）：単元デザイン(単元目標・内容・構成・展開)ースキルアップワーク(単元作成)「探究的なプロセスを踏まえた単元づくり」</p> <p>第6回：「総合的な学習（探究）の時間」の探究（講・演）：学習指導(主体的・対話的で深い学びの工夫と留意点)グループワーク(探究活動に必要な指導スキル)「具体的な指導技術(思考ツールの活用等)」</p>			

第7回：「総合的な学習（探究）の時間」の探究（講・演）：指導と評価(学習過程および評価法に関する留意点等)スキルアップワーク(評価法)「評価の考え方と評価テクニック」

第8回：「特別活動」の成立とその変遷（講・演）：学習指導要領(戦後～現在)の「目標・内容・方法」を整理するスキルアップワーク(協働による模擬試験の解答)

第9回：「特別活動」の探究（講・演）：出身校における調査から学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特徴を理解するスキルアップワーク(ネット検索・情報編集・分析・まとめ・報告)

第10回：「特別活動」の探究（講・演）：学級活動・ホームルーム活動(教育課程上における意義と指導のポイント)グループワーク(ソーシャルワーク・ゲームの活用)

第11回：「特別活動」の探究（講・演）：児童会・生徒会活動(教育課程上における意義と指導のポイント)スキルアップワーク(プランニングとポートフォリオ)

第12回：「特別活動」の探究（講・演）：学校行事(教育課程上における意義と指導のポイント)、グループワーク（活動の整理と地域連携の事例検討)

第13回：「特別活動」の探究（講・演）：クラブ活動(教育課程上における意義と指導のポイント)、スキルアップワーク(マイキャリアシート)

第14回：「特別活動」の探究（講・演）：指導計画と評価(他教科連携、協働的な学びに繋がる活動計画と地域連携型評価)プレゼンテーション・グループワーク(プランニングシート・評価ツール)

第15回：本講義のまとめ（講・演）：本講義内容「総合的な学習（探究）の時間」と「特別活動」に対する自らの学びを振り返るスキルアップワーク(ジャーナル作成)「本講義で学び得たこと」定期試験

テキスト

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編/特別活動編（平成29年6月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編/特別活動編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編/特別活動編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介する

学生に対する評価

学生に対する評価

レポート提出(20点)、課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等提出(60点)、授業中の態度(20点)とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。

(評価基準)

出席レポート：

講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている (A)

講義中に学んだことを要約していたり、自分の意見を述べていたりしている。(B)

講義中に学んだことも自分の意見も明確に述べていない (C)

課題 (スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション) レポート・作品等 :

自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している (

A)

自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表している (B)

自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表しきれていない (C)

授業中の態度 :

自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている (A)

自分の意見を持って参加するとともに他者との協力もできている (B)

自分の意見を持った参加や他者との協力ができていない (C)

授業科目名： 教育の方法・技術（ICTの活用含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩崎 千晶
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育の方法及び技術」に関して授業で取り上げた理論や教育実践事例をもとに、①授業を設計する際に、具体的な学習目標を提示できる。②学習目標に応じた教育方法を選択し、それを用いた理由について説明できる。③学習目標に応じた評価方法を選択し、それを用いた理由について説明できる。 ・ICTを活用した授業実践の方法や教育事例について説明できる。 <p><思考力・判断力・表現力></p> <p>授業で扱った理論や実践的な知識や技術を基に、自分で授業目標を設定し、それに適した教育方法や評価方法を選択し、授業指導案を作成できる。</p> <p><主体的に取り組む態度></p> <p>質の高い授業を設計するという目的意識をもって、学習課題に主体的に取り組む、学んだことの意義を実感できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、「学ぶこと」「教えること」の質を高める授業設計について考える。具体的には、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適で協働的な学び」を実現するために、学習目標をどう設定し、その目標を達成するためにどのような教育方法、評価方法を選択することが望ましいのかについて理論的、実践的に検討する。授業設計に関しては、情報通信技術（ICT）の活用（教育番組の活用、タブレットPC等の授業での活用、オンライン授業の実践等）についても扱う。また授業研究についても言及し、授業の質を向上させるための方法についても検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法・技術を考える（教科書：1，2章）</p> <p>第2回：学力と教授：学習目標，教えることについて考える（教科書3，6章）</p> <p>第3回：教育内容：学習目標の達成に向け、何を教えるのかを考える（教科書7，8章1－3節）</p>			

第4回：教育方法：授業構成（導入・展開・まとめ）を考え、授業案を作成する（教科書7，8章1－3節）

第5回：魅力的な授業（1）：動機付けを考える（教科書4，8章4節）

第6回：魅力的な授業（2）：協同学習を考える、ICTツールを使った協同学習を考える（教科書9章）

第7回：ICTを活用した授業を考える（1）：教育番組、映像コンテンツの活用を考える（教科書10章）

第8回：ICTを活用した授業を考える（2）：電子黒板、デジタル教科書の活用を考える（教科書12章）

第9回：ICTを活用した授業を考える（3）：タブレットPCの活用、遠隔・オンライン授業を考える（教科書11,13章）

第10回：ICTを活用した授業を考える（4）：特別な支援を必要とする学習者へのICT活用を考える（教科書15章）

第11回：評価方法：いつ、何のために、どう評価を行うのかを考える、評価におけるICT活用（学習履歴等の教育データの活用）を考える（教科書16章）

第12回：ゲストスピーカーによる講和（教育現場の生の声から学ぶ）

第13回：情報モラル教育：情報モラルの育成、情報セキュリティを考える（教科書5章）

第14回：プログラミング的思考：プログラミング的思考の育成を考える（教科書14章）

第15回：学習環境・授業研究：ICTを活用した校務の推進、ICT支援員など外部人材の活用、学校におけるICT環境の整備、教師の成長を考える（教科書17,18章）

テキスト

岩崎千晶・田中俊也（編） 教育の方法・技術とICT活用：教育工学と教育心理学のコラボレーション 北大路書房 978-4762832420

参考書・参考資料等

1. 文部科学省「中学校学習指導要領」（平成29年3月改訂版）、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月改訂版）及びその解説書
2. 佐藤学（2010）『教育の方法』放送大学叢書
3. 稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアルVer.2：教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

レポート（60%）

ミニツッペーパーまたはLMSへの書き込み（40%）

授業科目名： 生徒指導法（進路指導含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 定金 浩一
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程における生徒指導・進路指導及びキャリア教育の位置付けを理解したうえで、理論及び方法を修得する。 ・暴力行為・いじめ・不登校等の多様な問題行動と、児童虐待等の今日的な生徒指導の課題についての知見を深める。 ・児童生徒の健全な育成に向けて、学校の教育活動として支援の方策等について理解を深め、組織的・継続的に取り組む資質・能力を育てる。 ・キャリア教育の重要性を踏まえ、生き方を考える進路指導の理論と方法を理解する 			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動である。実際の学校現場での具体例をもとに、「教師と子供との信頼関係の築き方」や「子供同士の望ましい人間関係づくり」「子供自身の自己実現を図るための多様なサポート」を学ぶ。そのうえで、「人としてどう生きるのか」や「自分らしく生きるとはどういうことか」などを出発点にキャリア教育を生かした現代の進路指導の在り方も積極的に考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションと学校教育における生徒指導の意義と役割</p> <p>第2回：生徒指導の4機能</p> <p>第3回：生徒指導と教育相談</p> <p>第4回：教育課程と生徒指導</p> <p>第5回：生徒指導の方法：生徒指導と個別指導</p> <p>第6回：いじめ問題、暴力と生徒指導</p> <p>第7回：不登校と生徒指導</p> <p>第8回：生徒指導の今日的課題：インターネットと生徒指導</p> <p>第9回：生徒指導と法</p> <p>第10回：チームで取り組む生徒指導</p> <p>第11回：進路指導・キャリア教育の意義と原理</p>			

第12回：教育課程と進路指導・キャリア教育

第13回：職業指導とキャリア教育

第14回：進路決定・キャリア形成の支援

第15回：キャリアカウンセリングの理論とルーツ

定期試験

テキスト

「生徒指導提要」（文部科学省）デジタル版

コアカリキュラム対応 生徒指導・進路指導の理論と方法 金沢信彦・渡部昌平 編著

北樹出版

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

評価は、定期試験（60%）、レポート課題、授業での議論への積極的な参加（40%）に基づき実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大澤香織、大西彩子、定金浩一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における教育相談の意義と課題を理解している。 ・教育相談を進める際に必要な基礎知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。 ・いじめ、不登校、虐待、非行等、今日的な教育課題への教育相談の進め方や組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。</p> <p>学校現場では、いじめ、不登校、非行といった教育課題にどう対処するかが重要になっている。児童生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる力が教員には求められている。そこで、この授業では、学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的技法、教育相談の進め方などを事例研究やロールプレイなどを通して身につけることをめざす。また、保護者や関係機関との望ましい連携の在り方を身に付け、実践していくことをめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション・教育相談とは</p> <p>第2回 カウンセリング理論</p> <p>第3回 カウンセリング技法</p> <p>第4回 傾聴</p> <p>第5回 解決志向型カウンセリングの理論</p> <p>第6回 解決志向型カウンセリングの技法</p> <p>第7回 心の病</p> <p>第8回 教育相談におけるアセスメント</p> <p>第9回 専門機関との連携・心理検査</p> <p>第10回 いじめ・不登校に対する教育相談</p>			

第11回 学校不適応者等に対する教育相談

第12回 教育相談の実際

第13回 顔合わせ面談

第14回 家庭の理解と保護者への支援・保護者面談

第15回 教員のメンタルヘルス・これからの教育相談

定期試験

テキスト

よくわかる！教職エクササイズ③ 教育相談[第2版] 森田健宏・吉田佐治子 編著

ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

評価は、定期試験(40%)と授業での議論への積極的な参加(60%)に基づき実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名： 教職担当：岡邑 衛 教科担当：小荒井 千人	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	約20人	教科ごとに開講することを基本とし、授業内容によっては合同実施とする。			
教員の連携・協力体制 <p>「教職の基礎的理解に関する科目等」と「教科及び教科の指導法に関する科目」の担当者でもある当担当教員が中心となりお互いに連携しながら教員のローテーション方式で実施する。</p> <p>学校現場経験者でもある教職担当教員が中心に授業を実施する。履修カルテの情報を共有するなど、個々の学生の履修履歴や、成績評価、教育実習記録、進路希望、日々の状況等に即した指導が行えるよう、教職教育センターを中心にコーディネートし、連携を図る。学校現場との連絡調整も行い連携を深める。</p>					
授業のテーマ及び到達目標 <p>将来、教員になる上で、自らにとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識やICTをはじめとする技能を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目標とする。</p>					
授業の概要 <p>授業では、①教師としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒の理解や学級経営等に関する事項、④教科の指導力に関する事項といった課題目標を達成するために、フィールドワーク（中学校での授業参観）、事例研究、課題発表等を多く取り入れ、ICT機器を使用しつつ実践的な指導力の養成を図る。</p>					
授業計画 <p>第1回：オリエンテーション・履修カルテの点検（岡邑） 第2回 学級経営の基本（岡邑） 第3回 脳科学から見た教育（岡邑） 第4回 学校現場の今日的課題の学修①不登校の事例研究（岡邑） 第5回 学校現場の今日的課題の学修②生徒指導の事例研究（岡邑） 第6回 教科指導と指導技法（ICT活用・デジタル教科書）（小荒井・岡邑） 第7回 学校現場における授業観察と協議（小荒井・岡邑） 第8回 学校現場の諸課題と協議（小荒井・岡邑） （第7回、第8回は、本学近くの中学校に出向き、理科の授業見学と校長講話を聞く時間に充てる） 第9回 学校現場実習についての反省（小荒井・岡邑） 第10回 学校現場実習の反省を踏まえての教育方法の検討（小荒井・岡邑） 第11回 若手優秀教員による講義（岡邑） （本学卒業生をゲストスピーカーに呼んで学校現場についての講演） 第12回 学校教育の今日的課題の認識①体罰問題を中心とした非違行為について（岡邑） 第13回 学校教育の今日的課題の認識②いじめ問題を中心として（岡邑）</p>					

第14回 学校教育の今日的課題の認識③学校トラブルの保護者対応（岡邑）

第15回 教員のメンタルヘルスと教員としての資質・能力のまとめ（岡邑）

テキスト

これまで使用してきた「教職の基礎的理解に関する科目」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」のテキスト（学習指導要領を含む）のテキストを適宜使用する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

評価は、課題・レポート（40%）授業への参加態度（30%）グループ活動の状況・発表等（30%）で実施する。100点満点のうち60点以上を合格とする。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。